

One Purpose

FOR BETTER COMMUNICATION



同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY



189

2016 December



COVER INTERVIEW
My Purpose 挑戦する人

特集

京田辺校地
開校30周年記念企画
京田辺キャンパスの「今」

同志社人訪問

リオデジャネイロ2016パラリンピック競技大会
アーチェリー・リカーブ男子個人代表

上山 友裕さんに聞く

2

特集

京田辺校地開校30周年記念企画 京田辺キャンパスの「今」

3 座談会

地域との交流を深め、その活性化に貢献する
学生たちが語る活動の「昨日・今日・明日」。

7 京田辺市役所から見た 京田辺校地

8 卒業生から見た地域連携



9

Seminar ～ゼミ探訪 学びの時間～

経済学部 奥田 以在ゼミ



11

同志社の研究は今

東南アジアのプランテーション研究センター
センター長 林田 秀樹（人文科学研究所准教授）

13

来年度就職をめざす皆さんへ

15

CAMPUS NEWS

学生有志が同立戦応援ポスターを制作!／フランス留学日本縦断プロモーションツアーを開催!／
平成28年 司法試験合格者発表／「災害ボランティアに係るパートナーシップ宣言」の表明披露／
今出川校地 おしチャリ開始!／岡崎体育 登場!!!／第9回 新町祭を開催!／本学教員の執筆図書紹介

19

留学生紹介

ウォルター・ビュージルさん
(AKP 同志社留学生センター)



20

INTERVIEW ～同志社人訪問～

リオデジャネイロ2016 パラリンピック競技大会
アーチェリー・リカーブ男子個人代表
上山 友裕さんに聞く



23

My Job, My Life ～私と「仕事」～

原田 諒さん（2004年 法学部法律学科卒業）
長尾 香奈さん（2010年 工学研究科数理環境科学専攻修了）

25

ANNOUNCEMENT

27

COVER INTERVIEW My Purpose ～挑戦する人～

黒川 智紀さん（生命医科学部医生命システム学科 4年次生）



ご意見・情報を募集

「One Purpose」は在学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションを図ることを目的として発行しています。
どうぞお気軽にご意見・情報を広報課までお寄せください。

1986

京田辺校地 外観東面全景

Feature article
特集

京田辺校地開校30周年記念企画

京田辺キャンパスの

「今」

今年迎えた京田辺校地開校30周年という大きな節目の時を記念して
本号では地域の交流と活性化を推進する学生たちの活動を
テーマにした座談会を始めとする巻頭特集を展開しています。
これらの企画が未来に向けて新たな一歩を踏み出す
京田辺キャンパスを展望する契機になればと考えています。

2016

京田辺校地 外観東面全景



京田辺キャンパスの「今」

座談会

地域との交流を深め、
その活性化に貢献する学生たちが
語る活動の「昨日・今日・明日」。

横川 隆一副学長

【同志社大学副学長・
研究開発推進機構長】

同志社
クローバー祭

実行委員会スタッフ・統括リーダー

阿部 有紗さん
【心理学部3年次生】

同志社
ローム記念館
プロジェクト
たびプロ〜木津川市
プロデュース
プロジェクト〜

プロジェクトメンバー
下村 郁佳さん
【文化情報学部3年次生】

同志社
生涯スポーツ
研究会
DUAL Sport

所属・前代表
加藤 力さん
【スポーツ健康科学部3年次生】

地域の人々の支援を得ながら 活動の推進に全力を注ぐ

横川 それぞれの活動の目的や沿革を教えてください。

阿部 同志社クローバー祭は学生、教職員、市民の方々が共に楽しみながら交流できる場を創出し、これが大学と地域の連携による新たなコミュニティの形成につながることを目指して開催している京田辺キャンパスの学園祭です。主催は同志社大学、共催は京田辺市で、企画・運営は京田辺キャンパスで学ぶ学生で構成した実行委員会が担っています。京田辺市との包括協定の一環として2005年度から地域交流を

目的に開催され、2010年度に現在の「クローバー祭」に名称を変更しました。また、2011年に発生した東日本大震災を契機に本学とゆかりのある福島県への支援を開始し、翌年から「学生主体」「地域交流」「福島親交」を祭事の三本柱に掲げています。2016年度の実行委員会のメンバーは3年次生12人、2年次生18人、1年次生39人で総計69人（男性32人、女性37人）です。

加藤 同志社生涯スポーツ研究会は子どもから高齢者の方々までを対象に、すべての世代がスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現に向けて、スポーツの普及、スポーツのできる場所の提供、生涯スポーツの指導

などを行っています。本研究会は2008年度にスポーツ健康科学部の第一期生の学生が発起人となり結成されました。翌年から京田辺市内を中心とした地域の小学生を対象に、2泊3日のスポーツキャンプ「同志社 夏のスポっこキャンプ」を毎年実施しています。また、2012年度に京田辺市生涯学習人材バンクに登録。これを契機に京田辺市教育委員会からの依頼で、市内の各小学校の留守家庭児童会（学童保育）で定期的にスポーツ指導を行っています。具体的にはドッジボールのボールの代わりにフライングディスク（フリスビー）を用いるドッチビーと呼ばれる安全性が高く、手軽に楽しめ

京田辺キャンパス 開校30周年 の歴史

1986年～1993年

学生数 約9,000人～約10,500人

1980年8月にキャンパスの造成が始まり、5年8カ月の工事期間を経て、1986年4月に開校を迎えました。今では自然あふれるキャンパスですが、開校直後は広いリザーブ用地が目立っていました。



るスポーツの指導を行っています。2013年度には「同志社 夏のスポっこキャンプ」とともに「同志社 冬のスポっこキャンプ」も開始しました。この他にも様々なスポーツイベントにスタッフとして参加し、独自のスポーツイベントの企画・運営も行っています。2016年度のメンバー数は4年次生9人、3年次生7人、2年次生7人、1年次生9人、総計32人（男性14人、女性18人）です。

下村 同志社ローム記念館プロジェクトのたびプロ〜木津川市プロデュースプロジェクト〜では、木津川市内の中学校チームと連携して地域の課題の解決や魅力の発信を目的とした企画を立案し、その具現化に取り組んでいます。木津川市プロデュースプロジェクトは、2012年度にプロジェクト科目としてスタートした継続プロジェクトです。3年目から同志社ローム記念館プロジェクトとして活動しています。本年度は昨年度に実施した「きづな旅」を外国人に向けて木津川市の魅力をアピールできるツアー企画として展開しています。これと併せて浄瑠璃寺や岩船寺の重要文化財の映像などを独自に撮影・編集した動画配信も開始しました。2016年度のメンバーの総数はおおよそ20人で、大学院生から1年次生まで幅広い学生が参加しています。

自分で選んだ活動だから 日々のやりがいは申し分なし

横川 どのような動機で活動に参加しましたか。

下村 1年次生の時に同郷の本学の職員の方に声をかけていただいたのが、本プロジェクトに参画するきっかけになりました。大学ではこれまで経験したことのない活動に取り組み、自身の成長の糧にしたいと考えていたので、

タイミング的にもぴったりでした。昨年は残念ながら参加できなかったのですが、今年再びプロジェクトに復帰することができ、張り切っています。

加藤 高校時代は野球部に入っていたのですが、入学直前に腰を痛めて部活動は断念しました。入学時にいくつかのサークルを見て回ったのですが、自分がスポーツをするのではなく、小学生やご高齢の方々を対象に指導するという本研究会の活動に大きな魅力を感じてすぐに参加しました。当初の直感は大正解で、現在も充実した日々を送っています。

阿部 高校時代は文化祭の実行委員会のスタッフとして活動し、中学・高校



を通じて吹奏楽部に所属していました。これらの経験を通じて多くのメンバーと一つのものを創り上げていく高揚感を実感し、大学でもさらに大きなイベントに取り組み、達成感を味わいたいと思い、1年次生の時に実行委員会に参加しました。1年次ではステージ班のサブリーダー、2年次にはステージ班のリーダーになり、本年はクロバー祭実行委員会の統括リーダーを務めています。

横川 本年度の活動内容を具体的に聞かせてください。

阿部 京田辺キャンパス開校30周年を記念して今年のテーマを「感謝祭」としました。キャッチフレーズは「感謝無限大!!」です。同志社クロバー

祭の準備が本格的に始動するのは4月ですが、本年は京田辺キャンパスの発展を長年にわたって支えていただいた数多くの皆さまに改めて深い感謝の気持ちをお伝えするために、それ以前からスタッフ会議を行い、テーマを決定し、30周年を祝う特別企画の実施を検討しました。具体的にはおいしいポップコーンを様々な場所で先着無料配布する「感謝を運ぶポップコーンカート」、ハート形のカラフルな風船を自分でコーディネートする「わくわくバルーン」「30周年記念プレゼント企画」など多彩に展開し、他のイベント企画にも「感謝祭」の要素を盛り込みました。ステージプログラムや福島親交企画もこれまで以上に充実したものになったと自負しています。

下村 ツアー企画では旅行会社のJTBとの連携が実現し、新たな一歩を踏み出すことができました。また、地域の方々のご支援を得るために、スタッフが協力のお願ひに伺い、毎週1回開催するミーティングで進捗状況の確認や調整、課題をクリアするための討議などを行っています。11月20日に、私たちの企画した当尾の石仏を巡る秋のウォークラリー「きづな旅〜古き鎌倉時代の歴史を刻む〜」を実施しました。木津川市は京都市に次いで2番目に重要文化財が多い地域であり、その中でも特にこれらが数多く集積している当尾地区（通称：木津川市ゴールデンルート）に焦点を絞った企画です。さらに、英語による情報提供、QRコードによる歴史クイズ、マルチコプターによる空撮映像の発信なども試みています。

加藤 8月中旬に「同志社 夏のスポっこキャンプ2016」を実施しました。宇治市総合野外活動センター「アクトバル宇治」を会場とした本研究会のビッグ

1994年～2004年

学生数 約12,300人～約14,000人

1994年には工学部および工学研究科（現：理工学部および理工学研究科）、理工学研究所を田辺校地（現：京田辺キャンパス）に統合移転し、京田辺キャンパスの装いが大きく変わった年となりました。2003年には京田辺キャンパスの正門にそびえたつ同志社ローム記念館・情報メディア館が完成しました。



1994年 恵道館 竣工



2003年 同志社ローム記念館・情報メディア館 竣工

京田辺キャンパスの「今」

イベントです。小学生（4～6年生）を対象に自然に抱かれた環境の中でドッジビーなどのニュースポーツの体験や野外炊飯、キャンプファイアーなどの多彩な体験を通じて自主性や協調性を高めるのが目的です。スタッフを広報、プログラム、予算の3部署に役割分担して、連携しながら半年を費やして計画を練り上げます。初日は人見知りや緊張感で無口な子どもたちも、次第に打ち解けて快活に交流するようになり、1日目にはできなかった布団の片づけも手際良く行えるようになりました。

数多くの課題にも直面したが 全ての経験が貴重な学び

横川 各自のポジションで特に重視したことは何ですか。

下村 常にリーダーをサポートするのが私の役割であり、経験の浅い後輩たちにも、できる限り時間を割いて、適切な助言をするように心がけています。私自身が1年次生で参加した時に先輩の的確なアドバイスで壁を乗り越えることができたからです。やはり難しいのはメンバー全員の意思の統合を図ることです。それぞれの意見があり、取り組んでいる企画に対する視点やモチベーション、認識などにも差異があるからです。毎年メンバーがほぼ新しくなるため、木津川市について知る、理解するというゼロからのスタートとなってしまう、他の団体と築いてきた関係の再構築などにも時間がかかります。継続プロジェクトとしてのメリットを最大限に生かし切れていないなどといった課題があります。これがプロジェ

クトの運営における課題です。

加藤 今年の8月まで代表を務めていた時の経験も生かしながらメンバー全員に気を配り、円滑なプロジェクトの推進を目指しています。当時、特に重視したのは情報と意見の共有と各自に過剰な負担をかけないことです。また、いずれのサークルにおいても共通の課題だと思いますが、やる気に差があり、全員が同じ意識で活動するのは難しい。私は言葉ではなく、積極的な行動で示し、その後ろ姿で鼓舞するようにしています。他の活動団体や学生同士の横のつながりの強化も大切だと思います。

阿部 統括リーダーとして第一に重視したのは組織の安定化です。学園祭としては、他と比べて歴史が浅く、強化すべき点であると感じたからです。良き点は引き継ぎ、悪しき点は改善しなければならないと考えていました。それぞれに自覚を促し、責任感を高めてもらうことも重要です。活動を振り返ると、各班の意思の疎通、横のつながりが弱かったと実感しています。この問題を解消するために、全体集会などで班を超えた交流も試みましたが、温度差も感じました。マニュアルを作成しても、形骸化するという問題も生じました。これらは実行委員会の後輩へ引き継ぐ課題です。

横川 活動を通じて得たものを教えてください。

加藤 夏や冬のキャンプ企画の場合、メンバーの力だけで半年の時間をかけて準備を進めていきますが、その中で意見の衝突も起こります。でも、すべ



てを乗り越えて本番を終えた時の達成感は言葉では表せないほど大きい。子どもたちの弾けるような笑顔に包まれ、確かな成長を実感した時のやりがいとは格別です。だから、色々と苦労はありますが、また頑張ろうとなるわけです。大学に入るまで野球をしていたことは先にも申し上げましたが、監督や先輩の指示は絶対でした。そのような縦の世界しか知らなかったのも、横や後輩の意見も同様に重視するサークル活動は驚くほど新鮮でした。これも私にとって成長の大きな糧になりました。

阿部 試行錯誤を繰り返しながらも、最終的には学生にも地域の方々にも心から楽しんでいただけるイベントになったと思います。数多くの力を結集して同志社クローバー祭という素晴らしい大輪の花々を咲かせることができました。京田辺キャンパス開校30周年という大きな節目の時に統括リーダーとして参画できたことに感謝しています。これが3年間にわたって文化祭に取り組んできた私の集大成であり、色褪せることのない思い出になりました。すべての経験が貴重な学びとなり、社会に出てからも必ず役立つと考えています。

下村 プロジェクトを通じて地域交流を深めることができました。学部を超えて数多くの友人も得ることができました。人との出会いが新たなものを生み出すことを実感できたのも大きな学びです。ツアーの企画や実施によって

2005年～2012年

学生数 約13,000人～約15,500人

この期間は現在、京田辺校地に拠点を置く学部・研究科を新たに開設しました。

2005年 文化情報学部 開設
2007年 文化情報学研究科 開設
2008年 工学部から理工学部へ改組再編
生命医科学部・生命医科学研究科 開設
スポーツ健康科学部 開設
2009年 心理学部・心理学研究科 開設
2010年 スポーツ健康科学研究科 開設
2011年 グローバル・コミュニケーション学部 開設
2012年 脳科学研究科 開設



2005年 夢告館 竣工



2008年 医心館 竣工

同志社 クローバー祭

実行委員会スタッフ・統括リーダー
阿部 有紗さん
【心理学部3年次生】



同志社クローバー祭は、2005年度に本学と京田辺市の交流促進を図るために「大学と地域が連携した新たな祭典」を目指して開催され、秋恒例の大祭典となっている。その名称は本学の徽章、大学歌、京田辺市シティカラー「緑」に由来する。

同志社 ルーム記念館 プロジェクト たびプロ〜木津川市 プロデュース プロジェクト〜

プロジェクトメンバー
下村 郁佳さん
【文化情報学部3年次生】



本プロジェクトは2012年度に開始され、2014年度に「5年後の木津川市」をテーマに、地域をプロデュースするための企画を立案。本年度は海外からの観光客を対象にした木津川市ツアープランを開発・展開している。

同志社 生涯スポーツ 研究会 DUAL Sport

所属・前代表
加藤 力さん
【スポーツ健康科学部3年次生】



本研究会は全世代が親しむことのできるスポーツの普及を通じて地域社会に貢献することを目的に2008年度に発足。小学生を対象にした夏・冬のスポーツキャンプの実施を始めとする多彩な活動で高い評価を得ている。

交渉力や調整力、論理的な思考による課題解決の能力なども高めることができたと感じています。1年次生の時に尊敬の念で仰ぎ見た先輩の方々に少しでも近づけたのか。それがこれまでの歩みを振り返りながら、今改めて思っていることです。

愛され支えられながら 限りない年輪を刻んでほしい

横川 開校30周年の感慨や京田辺校地の魅力を聞かせてください。

阿部 開校当時の写真を見ると図書館横の木々も小さく、建物も少ない。長い時を刻みながら、京田辺キャンパスも大きく成長してきたのだと深い感慨を覚えました。同志社クローバー祭はもとよりプロジェクト科目などでも京

田辺市と関わり、非常に思い入れがあります。地域の方々も常に温かく受け入れ、見守ってくださいました。今出川校地の周辺には他の大学も点在していますが、京田辺市といえば同志社大学であり、相互の交流も盛んです。この際立つ特色をさらに大きく育み、限りない年輪を刻んでほしいと願っています。

加藤 私にとって30年という歴史は「すごい!」の一言ですね。1986年の開校から積み重ねてきた年月を思うと、圧倒されます。この記念すべき時に、本誌の特集に参加させていただき、貴重な思い出になりました。また、私たちの活動を支援していただいている地域の方々には心から感謝しています。

下村 当初は30周年と聞かされても

実感が得られませんでした。そこで、視点を変えて人間の年齢で考えてみました。私はまだ生まれておらず、両親が20代の頃ということになります。この時、改めてすごい歳月だと驚きました。多くの人々に愛され、地域の方々に支えられて、今日があるのだと思います。私は京田辺市で下宿しており、一人の住人としても地域の方々の優しさを日々感じており、住み心地も気に入っています。京田辺校地の魅力は学びのための環境が万全で、自然と共生した素晴らしいキャンパスであるということです。例えば、30年後に母校を再訪した時も、「京田辺校地は地域の人々に愛されている素晴らしいキャンパス…」という後輩の言葉が聞ければうれしいです!

2013年～現在(2016年12月)

学生数 約8,900人～約9,100人

キャンパス整備事業が行われ、2013年には京田辺キャンパスに理工系と文理融合学部が集積。また、2014年に全学共用の実験・研究スペース等で構成する複合的研究施設「訪知館」、2015年には京田辺キャンパス初めての礼拝堂がある「同志社京田辺会堂」が新たに竣工されました。



2014年 訪知館 竣工



2015年 同志社京田辺会堂 竣工

『まちづくりのパートナーとして』

京田辺市長
石井 明 三

同志社大学京田辺校地開校30周年、誠におめでとうございます。

田辺町職員として京田辺校地の開校に取り組んできた私にとっても感慨深いものがあります。

昭和61年の開校以降、私達は、まちづくりのパートナーとしてともに発展の道を歩んできました。特に平成17年の包括協定締結後は、「大学のあるまち」から「大学を生かしたまち」としてまちの魅力を高め、関西文化学術研究都市としての地位を築いてまいりました。政策フォーラムやクローバー祭などの共催や各種事業の審議会に参画いただくなど、その連携は年々深みを増しています。

また平成26年度からは、本市職員の派遣など、未来に向けた連携も進めているところです。

地方創生が本格的に始まり、産学官の一層の連携が求められている中で、日本最高峰の私立大学の一つ同志社大学は、本市にとってなくてはならない大きな存在です。

最先端の知的資源はもとより、若者の活気を地域の活性化に結びつけるとともに、学生の皆さんには、学生生活の貴重な時間を京田辺で過ごしてよかったと思っていただけるような、そして京田辺を第2のふるさとと言ってもらえるようなまちづくりを進めてまいります。

平成29年、京田辺市は市制施行20周年を迎えます。ともに記念すべき年を迎え、さらなる発展に向けて連携を深めてまいりたいと考えておりますので、皆様のご支援とご協力をよろしくお願いします。

はたぶりょう
京田辺市役所 市民部 市民参画課 篠生 亮さんインタビュー
同志社大学と京田辺市の連携事業の窓口を担当

— 現在の市民参画課で担当されているお仕事の内容を聞かせてください。

「大学連携」と「国際交流」の業務を担当しています。同志社大学、同志社女子大学、同志社国際中学校・高等学校との昨年度の連携事業は総計118事業に達しています。分野として最も多いのは教育・文化・福祉・スポーツ関係（53事業）、これに次いでまちづくり関係（27事業）となっています。これらは長年にわたる積極的な「大学連携」の成果であると考えています。また、京田辺市が2006年度から全国の大学に向けて実施している「全国大学まちづくり政策フォーラムin京田辺」でも同志社大学政策学部の学生が活躍しています。本年迎えられた京田辺校地開校30周年を新たな好機として、さらに同志社との連携を深めたいと考えています。「国際交流」では学生が主体となって国際交流イベントを展開している同志社大学の留学生課学生スタッフ組織の「SIED^{シード}」と京田辺国際交流協会の共催による留学生と市民を対象にしたイベントなど多彩な

活動を展開しています。同志社大学とも連携をとりながら、世界の人々との交流を通じて国際的な相互理解を推し進めていきたいと考えています。

— 本学の広報課に出向されていた時のご体験も役立っていますか。

数多くの貴重な経験をすることができ、感謝しています。学校法人同志社と京田辺市は毎年1回懇談会を開催しており、この懇談の中で決まった取り組みとして、昨年4月から1年間、実務研修生として派遣されました。広報という業務自体が初めての体験で、現在の業務にも生かせるスキルを得ることができました。日々、情報発信の第一線で正確かつ迅速に対応しなければならないので、当初はかなり戸



惑いしましたが、それだけに勉強になりました。広報課で携わった学生が大学をPRする「90秒プレゼン」の制作と「One Purpose」の企画・編集なども興味深いものでした。

— 地域の方々との交流を希望する学生への助言をお願いします。

学生の方々には市役所という場所はあまりなじみのないものだと思います。また、自分で発案した企画や提案など持ち込むという経験も少なく、敷居が高いと感じられるかも知れません。しかし、ためらうことなく積極的にアプローチしてください。私たちは誠意を尽くして対応させていただきます。その中から同志社大学と京田辺市との新たな連携事業が誕生し、大きな実を結ぶ可能性があるからです。気軽に市民参画課へ連絡してください。

「大学のあるまち」から「大学のまち」へ NPO「きゅうたなべ倶楽部」の挑みの軌跡

学生代表と市民代表の双方を置いた画期的な組織を構成し、設立の理念に賛同する個人サポーター、法人スポンサーなどの支援を得ながら多彩な活動を展開してきたNPO「きゅうたなべ倶楽部」。その発起人であり初代代表を務め、現在はアドバイザーとして後輩スタッフの活動を支援している杉岡秀紀さんに、大学生と市民をつなぐまちづくりの成果と展望をお聞きした。



福知山公立大学地域経営学部准教授
京都府立大学京都政策研究センター特任准教授

杉岡 秀紀さん

(NPO「きゅうたなべ倶楽部」発起人)

2003年 経済学部 卒業

2007年 総合政策科学研究科博士前期課程 修了

2009年 同 博士後期課程 中退

— 本NPOの設立の経緯や目的を教えてください。

大学2年次生の頃にインターンシップを京田辺市役所で経験したこと、経済学部の郡郷孝教授のゼミでの活動として、京田辺市で地域通貨の導入を試みたこと。これらの「縁」がNPO「きゅうたなべ倶楽部」を立ち上げる遠因になりました。当時、学生と地域の関わりが希薄だと実感したことで、大学院に進学して本格的に幅広いまちづくりに取り組むことになりました。2003年4月に本NPOを設立し、初代代表を務めました。第1期メンバーは学生8人に市民代表の方を加えた9人でした。その時に掲げ、いまでも受け継がれているミッションは、「大学のあるまち」から「大学のまちへ」です。しっかりとした組織づくりにも力を注ぎました。特に学生と市民の2代表制は活動を軌道に乗せる大きな推進力となり、双方の視点から「まち」を捉えるのに役立ちました。

— 現在の活動内容やこれまでの成果などを聞かせてください。

地域との積極的な連携を図りながら数多くの事業を企画し、具体化してきました。特に活動の根幹となり、情報や知見の交信と新たな出会いの場となっているのが、活動当初から継続展開している「情報交換会」です。毎月1回、各分野で活躍しておられる方をゲストスピーカーとしてお招きして勉強会を開き、各テーマに沿って活発な意見交換を行ってきました。すでに140回以上開催しています。新たな事業として後輩たちが展開している「龍馬館」の

貸館業務も「人が集まり、交わる空間」の提案として高く評価しています。本年、設立から13年目を迎えたNPOの活動成果はいくつもありますが、私が何よりも嬉しいのは「人材を育成する場」となっていることです。多彩な試みを通じて数多くの学生が自身の中に眠っていた能力に気づき、それぞれの明確な目的に向かって巣立ち、活躍しています。

— 京田辺校地開校30周年についてどのような感慨を抱いておられますか。

今年、京田辺校地開校30周年を迎えられましたが、新島襄先生と京田辺市の絆は130年以上も前に遡ります。この地に、1882年に開校された「南山義塾」の開校式に招かれて意義深いメッセージを残されています。NPOでもこれにちなんで「同志社南山義塾」を2007年に開講しました。また私は生粋の「同志社人」ですが、心に一番響くのは新島襄先生が掲げられた建学

の精神「良心教育」です。京田辺市にある酬恩庵一休寺の境内にある碑に、「諸悪莫作、衆善奉行」と刻まれているのをご存知でしょうか。これは「悪いことはするな、良いことをせよ」という意味です。少し強引な解釈かもしれませんが、新島先生の思いと一休禅師の教えは偶然にも見事に重なっていると思います。やはり「ひとづくり」こそが一番重要で、かつ難しいのですね。

30周年を機にこれからさらに同志社大学と京田辺市が一体となって「良きまちを創出する、良き人財の育成」に邁進していただきたいと願っています。

NPO「きゅうたなべ倶楽部」とは



「同志社大学と京田辺市」、「大学生と市民」および「ニューカマー（新しい住民）」と「オールドカマー（古くからの住民）」の交流を深めるために設立されたまちづくりNPO。その名称は京田辺市の代名詞ともいえる「一休禅師」の「きゅう」、感謝の心を表す「ありがとう（さんきゅう）」などに京田辺市の「たなべ」を合成した造語であり、新たなコミュニティ概念の創設と提唱・普及の意図が込められている。情報共有、環境向上、地域支援、広報・出版、商品開発などの事業を積極的に推進し、今年で発足から13年目を迎えた。



ゼミナール

Seminar

ゼミ探訪学びの時間

い あり
経済学部 奥田 以在ゼミ【経済学部准教授】

徹底したフィールドワークで 課題を見だし、考察する力を鍛え 職人を通じて現代を知る

自身の五感を研ぎ澄まし テーマを深掘りする

奥 田以在准教授の研究テーマは「近代京都の都市史」。明治維新による東京遷都で衰退の危機に直面した京都は、復興を目指して急激な変化にさらされる。その中で京都の最小の都市コミュニティである「町」が明治末頃から昭和初期に、どのように変化し、その変化にどのように対応したのかを探究することによって「町」から見た近代の分析を試みている。奥田ゼミの演習テーマである「京都の職人や老舗に関する研究—現代社会と京都のものづくりや文化を取り巻く世

界—」も、「町」とともに長年にわたって関心を抱いてきたテーマである。「私たちの日々の生活、その礎となる文化は、多彩なモノによって支えられています。暮らしとモノの関わりは時代を映す鏡です。そのモノづくりを担っている職人や背景の仕組みを探り、その世界の奥深さを知ることは、自身の価値観を見直し、今日の消費の在り方を再考し、現代の社会を新たな視点から熟考することにつながっていくと考えています」

奥田ゼミは2年次の秋学期から始まり、2年半かけて卒業研究に取り組む。大きな特徴は各6～7人のグループで独自のテーマを設定し、京都を中

心としたフィールドワークで調査研究を推し進めていく点である。2年次演習では京都や職人に関する書籍を輪読し、報告と議論を重ねながら聞き取り調査の方法を学び、最終的に今後の研究テーマを決定する。3年次演習ではグループの研究テーマに基づき、事前の研究を踏まえながら数多くのフィールドワークを実践。1年間にわたってデータ整理と分析を繰り返し、ゼミでの発表と質疑応答で次の課題を見だし、3年次の最後に行う中間報告に結実させていく。4年次演習では先の中間報告の成果を踏まえて、さらに調査を継続し、客観的な分析を試み、卒業研究の完成を目指す。

取材当日は4年次生のグループによる卒業研究の進捗報告が行われた。最初のメンバーのテーマは「京銘竹」。直近のフィールドワークや調査対象の概要、聞き取り調査の要点、今後の展望などについてパワーポイントを交えながら詳細に報告する。この発表を受けて、奥田先生からは「取材内容が抽象的!」「現状で優れた論文が執筆できるのか?」など鋭い指摘が入る。これに続くテーマは「京豆腐」「日本酒の杜



氏」であった。「聞き取り調査では自身の五感を研ぎ澄まし、問題意識を持って徹底的に深掘りすること。これによって成果は大きく異なってきます。指導の上で、目標を段階的に設定するようにしています。目標を乗り越えていく過程で多くの学びがあり、問題を考え抜くための様々な力が少しずつ身につくからです。最終的には、自分で課題を見だし考察し、因果関係を詳細に解明して的確に説明できる能力を培ってほしいと思っています。また、グループによるフィールドワークを通じて自分の価値観とは異なるものが存在することを実感することも大切です。

振り返れば、ゼミでの白熱の討議も懐かしい。奥田先生は生涯お付き合いをお願いしたい先生です。

4年次生 野口 凌平さん

取材を通じて大量生産社会とは正反対の世界を知ることができ、視野が大きく広がりました。

4年次生 出口 真太郎さん

みんなが活躍できるゼミです。奥田先生の熱い指導で人間的にも大きく成長できました。

4年次生 市瀬 仁子さん

職人さんとの語らい、取材先の方々と一緒に楽しく食事をしたことが最高の思い出です。

4年次生 島根 知也さん

懸命に挑んだことなら失敗も許される学生時代に七転八倒し、京都という街も大学の一部と考えてキャンパスの外に飛び出し、様々なヒトやコトと出会い、刺激を受けて感性を磨くこと…。これがゼミ生や本ゼミの選択を考えている在学生への奥田准教授からのメッセージである。

2年半に及ぶ学びの成果を卒業研究に結実させる

現 在、奥田ゼミに所属する4年次生は33人、3年次生は31人、2年次生も31人で総計95人(男性44人・女性51人)である。4年次生の市瀬仁子さんは、京都に密着した研究をするために本ゼミを選んだ。「それなりのきっかけがなければ、京都の老舗に深く関わることはできないけれど、フィールドワークを通じて数多くの方々に出会い、貴重な学びを得ることができました。当初は敷居の高さに圧倒されましたが、今ではお店の前を通る度に立ち寄って雑談ができるほど親密にさせていただいています。それ以来、人との『つながり』を大事にして調査を進めてきました。コミュニケーションの取り方によって、聞き出せる内容の深さが異なることも実感しました。これらの気づきを、これからの日々でも大切にしていきたいと思って

います」。同じく4年次生の島根知也さんは、座学では学べないような「生の情報」が得られると感じて本ゼミを選択した。ゼミに所属する以前の講義で初めて出会った奥田先生の印象が鮮烈だったことも大きな理由だったと振り返る。「外見的にも、人間的にも、強烈なインパクトがありました。快活な笑顔も魅力的でした。先生との雑談の中で、調査研究の選択肢が広がる助言などを得ることもあります。人生の先輩としていろいろと相談に乗っていただき、感謝しています」と微笑む。

フィールドワークの対象となる京都の職人の研ぎ澄まされた「生きた」言葉に触れることができるのが本ゼミの最大の魅力だと語るのは、4年次生の野口凌平さん。京都府豆腐油揚げ商工組合の理事長に取材して京豆腐の本質が理解できたという逸話も興味深い。「京豆腐は湯豆腐を基本に考えている。その主役は豆腐ではなく出汁。だから、昔ながらの京豆腐は味があって無いようなもの、出汁の邪魔をしないツルンとしたものが良いとされた…」というお話から、「なぜ、京豆腐は柔らかくて、のど越しが良く、豆の味による主張がないのか…」という疑問が瞬時に解けたのである。この「つながった」という感触は今でも忘れられないという。

4年次生の出口真太郎さんは京銘竹



をテーマにした調査研究で、現場の職人の技に触れ、職人の心技が日本の伝統文化を支えているということを実感。また、「自分の外の世界に踏み出せ」という奥田先生の洞察に満ちた言葉が自分の殻を破るきっかけになったと感慨深げに語る。

3年次生の春田峻さんは自分たちで職人の方々にアポを取り、取材を重ねていく本ゼミの方法が、学びを深め、人との関わり方や礼儀作法などを身につける上でも役立っていると話す。3年次生の谷垣奈穂さんは、ゼミ説明会で、先輩達の独特な雰囲気に加え、「地を這うようなゼミ」という奥田先生の言葉から、「このゼミは“地道にコツコツと物事の細部に目を向けるゼミ”で、何より“感性を磨けるゼミ”だ」と魅力を感じ、直感的に本ゼミを選んだ。グループでの討議などを通じて、自己の立ち位置を客観的に判断し、臨機応変に行動できる人間になることを目指している。

拡大し続けるアブラヤシ・プランテーション そのメカニズムを究明し、 現状理解・問題解決に寄与する成果発信を

東南アジアではアブラヤシ・プランテーション（農園）が年々拡大の一途を辿っており、当該地域の社会・経済・自然に多大な影響を及ぼしている。経済学、政治学、社会学など多様な分野の専門家が結集した東南アジアのプランテーション研究センターでは、そうした農園拡大の原因とそれに起因する諸問題をフィールド調査や文献調査に基づいて研究している。その研究活動の成果を発信し、より精確な現状理解と問題解決に寄与することが本研究センターの目的である。

東南アジアのプランテーション 研究センター

センター長 **林田 秀樹**

【人文科学研究所准教授】

1992年 神戸商科大学（現：兵庫県立大学）
大学院経済学研究科博士前期課程修了。
1994年 同上 博士後期課程中退。
学部生の頃に読んだ本は専門外のものが多かったが、特に鶴見良行『バナナと日本人』（岩波新書）、村井吉敬『エビと日本人』（岩波新書）に感銘を受け、一次産品を通じた日本とアジア諸国との関係に関心を抱く。オフタイムは体験農園「マイファーム」の畑で野菜づくりに励み、気分転換を図っている。



プランテーション開発はなぜ進んだか

アブラヤシの果実から採れるパーム油は食用油として数多くの食品に用いられるとともに、石鹸、洗剤、化粧品等の化学製品の原料としても幅広く使われており、現在、植物性油脂の中で最大の生産量を誇っている。そのパーム油の主要生産国であるインドネシアとマレーシアでは日本の国土面積の4割に相当する約1,600万ha(2014年時点)までアブラヤシ農園が拡大し、現地の所得増に貢献する一方で数多くの問題が引き起こされている。具体的には農園開発を行う企業と地域住民との間のコンフリクトや、泥炭地における農園開発に伴う大規模火災による煙害、天然林の減少、生態系の変容等で、それらへの対策が求められている。

「急激なアブラヤシ農園拡大の契機は、1997年に発生したアジア通貨危機でした。インドネシア等パーム油生産国の通貨の対外価値が大幅に下落し、パーム油の国際競争力が高まって輸出が伸びたのです。それに応じてその原料も高値で売れるようになったため、コメやゴムからアブラヤシに作目を転換する農民や新規にアブラヤシ農園を開発する企業が激増しました。パーム油の原料農地単位面積当たり生産性が他の植物油と比較して格段に高いことも、パーム油の競争力を高めています。また、インドネシアでは通貨危機後の社会的動乱のなかで様々な民主化政策が実施され、地方分権化が進みました。その一環として州の下の方・市に農園開設認可に関する大きな権限が与えられた結果、税収増等を企図する地方政治家たちが農園企業向けの認可を出しやすくなったことも農園拡大の大きな要因です。現在、インドネシアに1,000万ha以上あるアブラヤシ農園のうち、民営企業所有が約50%、小農所有は約40%を占めています」

これら以外にも、例えば日本で顕著な晩婚・非婚の傾向、あるいは独居高齢者の増加による個食の増大も、パーム油を多く使用する外食・中食産業の発展を促し、その消費量を増大させる要因となっている。

多様な分野の専門家による調査研究

本研究センターは、2009年6月に東南アジアのアブラヤシ・プランテーションに関する学際的な調査研究を目的に活動を始めた「アブラヤシ研究会」が母体である。メンバーは主に経済学、政治学、文化人類学など人文社会科学系の研究者、並びに農学、環境科学等自然科学系の研究者で構成されている。研究会は累計で54回開催され、外部講師を含めて報告者は延べ125組134人に上り、それを土台にこれまで関連学会等で8回にわたって

グループ報告を実施してきた。「本研究センターのメンバーはすべてアブラヤシ研究会の一員です。この研究会は現在もセンターの活動の基盤であり、NGO活動家、製油企業社員等も参加して活発な活動を続けています」

対外的には、2014年9月にインドネシア・西カリマンタン州のタンジュンプラ大学社会政治科学部、京都大学東南アジア研究所との間でMoU(学術協力に係る覚書)を締結。互いの調査研究成果を日本・インドネシアで毎年交互に開くシンポジウム等で発表し合い、研究交流を行っている。成果を現地に還元し、日本、さらには国際社会一般に発信するのが目的である。



インドネシア 農民組合員の方々と

最終成果としての共同著作の出版を目指す

現地調査はインドネシア、マレーシア、タイを対象国として春夏の長期休暇期間中に実施。学期中は、定例研究会で調査研究結果を交流し学会報告や論文といった中間成果に結実させている。

「メンバーのテーマは個々の専門分野によってそれぞれ異なります。例えば私の場合、「老朽化」した小農所有農園の植替え＝再植をスムーズに実施していくための経済的な仕組みづくりがテーマです。所得増への効果を維持しながら行過ぎた農園拡大を抑制するための主要な方法は農園の土地生産性を高めることですが、それには様々なやり方があります。植栽後25～30年で収量が減少し始めるアブラヤシの木を適切な時期に再植することもその一つです。再植には、古木の除去と整地、種苗購入等の費用がかかるうえに、小規模農園を所有・経営している農民たちにとっては、苗木が育って実をつけるまでの3～4年間の生活費をどうするかという問題も避けて通れない。こうした問題の打開策を現地調査に基づいて考えています」

本研究センターでは、メンバー約20人による共同著作の来年度中の出版を目指している。東南アジアのアブラヤシ・プランテーション開発の問題に向けられる学界・一般からの高い関心に、長年の共同研究の成果で誠実に応えたいと考えている。



研究センターのメンバー



再植後の農園で育つ新しいアブラヤシの木

来年度就職をめざす皆さんへ

「充実した学生生活としっかりした準備を」

就職を取り巻く状況

現4年次生（2017年4月採用）の就職活動スケジュールは3年連続で変更となり、企業の広報活動の開始時期を3年次生の3月から、採用選考活動の開始時期は4年次生の6月からとなりました。ただし、経団連加盟企業も含めてこの日程によらない企業も多数あります。また、採用選考活動が昨年度より二カ月早まったことで、企業の動きが早期化した一方、3月の広報解禁が変わらなかったことで、学生の準備開始は前年度と大きく変わらず、準備不足のまま就職活動本番に突入してしまった学生も多くいたようです。結果として、「売り手市場」と言われる状況であったにもかかわらず、7月以降も活動を継続する学生が少なからず存在しました。

キャリアセンターでは、10月中旬に第1回ガイダンスを開催し、現3年次生への就職支援を開始しました。そこでは前年度の反省をふまえて、事前準備の大切さをお伝えしましたが、2月までの就職活動準備期間こそ様々な準備が必要となります。インターンシップに参加することだけが準備ではありません。学内外

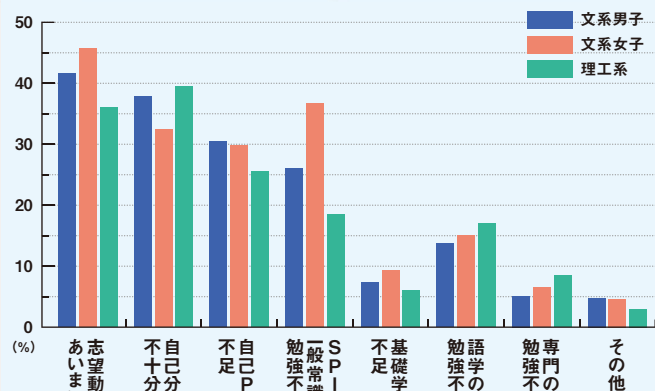
の様々なセミナー等を通して、自己分析、業界研究、仕事研究を行い、自身のキャリアについてとことん考え抜いてください。この準備期間をしっかりと過ごすことが就職活動を成功に導き、来来自身の個性を活かして活躍できる場を見つけるために大切です。2017年3月には、今出川に約700社、京田辺に約500社と全国の大学でも有数の規模で学内企業研究セミナーを開催します。このセミナーには、幅広い業界から、地域から、規模も様々な企業が、同志社大学生を採用したいと集まって来られますので、ここでできるだけ多くの企業の説明を聞き、志望業界や企業を的確に絞り込んでください。また、キャリアセンターでは学生一人ひとりの個性を活かすため、各種セミナーの他、個別相談にも力を入れていますので、積極的に利用してください。

現4年次生の採用状況については、一般的には好調のうちに推移していると見ています。リーマンショック以降「厳選採用」が定着してきましたが、景況感の改善等により、今年は「売り手市場」と言われています。しかし、一方で企業は「基準を下げてまで採用しません」と言われています。グローバルな経済環境の中で国際競争に勝ち抜くためには、企

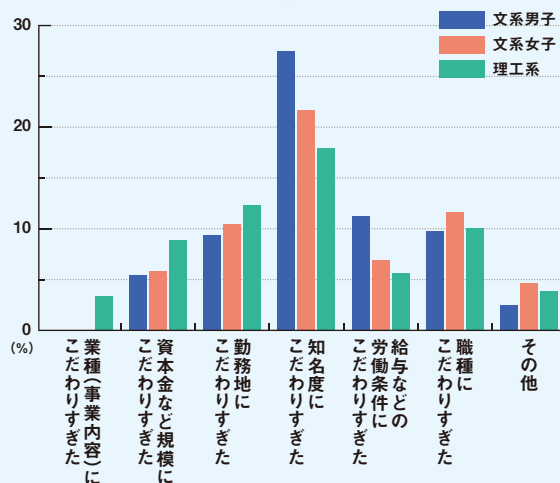
業の発展を支える次世代を担う人材を確保する必要があり、そのために「厳選採用」の姿勢を堅持されています。企業は単に数合わせで採用しているのではなく、「コアになる人材が欲しい」と考えているのです。

近年では一人で複数の内々定を得る学生がいる一方で、なかなか内々定を得られず、長期化を余儀なくされる学生もいるといった二極化傾向がより顕著になってきました。先輩達の反省点として、2016年3月に卒業した本学学生の就職活動を終えてのアンケート調査（下図参照）を見ると、応募先選択段階での反省点として、「知名度にこだわりすぎた」が1位で「職種にこだわりすぎた」「勤務地にこだわりすぎた」と続いており、面接・試験段階での反省点としては、「志望動機があいまい」「自己分析が不十分」「自己PRの不足」「SPI・一般常識の勉強不足」があげられています。「売り手市場」であっても、筆記試験の勉強不足、自己や業界・企業の理解不足、自分のイメージだけで就職活動を行ったことで苦戦したケースも見受けられます。消費者の目に触れない企業であっても業績を伸ばし、発展している企業は数多くあります。就職活動が長期化した学生も就

面接・試験段階での反省点



応募先選択段階での反省点



職活動を進めるうちに自分に合った企業を見る視点が定まり、最終的には満足のいく就職先を決定しているケースも多くありますが、目先の企業選びではなく、自分自身がどのような道を歩みたいのか、早い段階から働くという視点を持って考えてほしいと思います。

企業の求める人材

それでは、企業はどのような人材を求めているのでしょうか。経済産業省が、職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力を「社会人基礎力」として提唱しています。「前に踏み出す力（アクション）」、「考え抜く力（シンキング）」、「チームで働く力（チームワーク）」の三つの基礎的な能力から構成されると定義付け、その三つの能力を主体性、働きかけ力、実行力、課題発見力、計画力、創造力、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力の12の要素に区分しています。この12の要素のうち最も重要だと考えられる要素として、企業は「主体性」と「実行力」をあげています。経団連が実施したアンケートによりますと、企業が選考時に重視する能力の1位は12年連続で「コミュニケーション能力」でした。2位以下は「主体性」、「チャレンジ精神」、「協調性」と続いています。企業が新卒の学生に求める力の平均値は、「コミュニケーション能力を有しつつ、自ら主体的に行動し、実行する力」と集約できるでしょう。誤解しないでほしいのは、「コミュニケーション能力」は友人との会話ができるということではありません。グローバル化が進展する中で、語学力を評価する企業が増えていますが、単に「語学が得意」だけでは評価されません。社会人基礎力を備えた上での語学力、すなわち様々な価値観を持った人たちの意見を傾聴し、その上で自分の意見を発信できる力が必要とされているのです。

充実した学生生活を

社会人基礎力を身につけるためには、何事にもチャレンジすることが大切です。

授業はもとよりクラブ・サークルやボランティア活動あるいはアルバイトを含め、自分の興味・関心のあるものを見だし、それに真剣に取り組み達成感を味わうこと、失敗や挫折を経験することが自らを一回りも二回りも成長させます。そしてそのような行動をとる中で、自ずと社会に向ける目も広がり、多くの人と関わることで「人間力」が磨きあげられます。様々な経験を積み重ねることが卒業後の人生を豊かにするとともに、その過程でいろいろな気づきをして成長した学生に企業は魅力を感じ、結果として、就職活動における評価にもつながります。漫然とした日々を送るのではなく、常に何かにチャレンジする充実した学生生活を送ってほしいと思います。

来年度就職をめざす皆さんへ

皆さんが就職する目的は、「社会での自立」、「社会参加による貢献」、「能力を生かした自己実現」ということになるかと思っています。そのためにはまず、自分自身を知ること（自己理解）が就職活動の第一歩となります。そして自分のやりたいことがどのような職業で実現できるのか、自分の力がどのように職場で発揮できるのか考えてください。それを考える手段として、インターンシップに参加したりインターネットで調べるだけではなく、学内セミナー、企業セミナーへの参加やOB・OG訪問などで幅広く情報を収集することが大切です。これらを経て、自分のやりたい職業、働きたい企業を見だし、業務内容をよく調べ、「自分はこの会社でどのように働きたいか」を話せるようにしておくことがポイントです。採用担当者は、面接などのやりとりから、熱意、主体性、コミュニケーション能力、問題意識や行動力を見極め、「一緒に仕事をしたい人物か」どうかを判断するからです。皆さんにとって魅力ある企業は必ず発見できるはずで、今、知っている企業が自分にとって良い企業とは限りません。自分が仕事をする上で、いい企業をこれから見つけていってほしいと思います。自分を信じて前向きに就職活動にチャレンジしてください。

今年度就職活動をした先輩からのメッセージ

（「2016年度 就職に関するアンケート」から）

積 積極的に学内外のセミナーや説明会に足を運ぶことが大事だと思います。特に、大学で開催されるセミナーに来てくださる企業は本当にいい企業ばかりですので、学外のセミナーに行って人の多さに疲れるよりも、慣れた場所で、お話しも有意義なものが聞けました。
文学部 女性

自 自分が将来何をしたいのかをしっかりと考えてください。そして会社の規模や知名度にとらわれず、幅広く多くの企業を見てほしいです。
社会学部 男性

就 就職活動は、今までの自分の人生経験で得た価値観と企業が持つ価値観をマッチングさせるものです。そのために、「自分を知ること」と「相手を知ること」を徹底的に行ってください。
経済学部 男性

と にかく早くから自己分析、ES対策、SPI・筆記試験対策などの準備を始めるべきだと思います。またOB・OG訪問はその業界や会社のことを深く知れる良い機会ですので、できるだけ多くの方のお話を聞いてみてください。自分ひとりの力に頼らず、周りの人の助けを借りて、最後まで焦らず頑張ってください。
グローバル地域文化学部 女性

就 就職活動が本格的に始まるまでの事前準備が一番大切です。私の場合は、SPIの勉強があまりできていなかったため、前もって勉強しておけばよかったと感じています。エントリーシートや面接での志望動機は、なぜその企業に行きたいのか、その企業で何をしたいのか等を書くことで熱意が伝わります。志望する企業のことを細かく調べることが重要だと思います。
法学研究科 女性

ほ とんどの企業が面接で、「学生時代に頑張ったこと」を聞いてきます。すごいことをした経験を求めているのではなく、自分のことをどれだけ客観視できているかという部分を見られているように感じたので、「学生時代に頑張ったこと」は必ず自分の中できちんと整理して臨むべきだと思います。
文化情報学研究科 女性

早 い段階から、自分の将来について考えてください。そのために、留学やインターンシップをしたり、他学部の人ともつながりを持つと行動してみましょ。視野が広がり、自分は何なんだらうと見つめ直すいい機会になります。自分の好きなこと、やりたいことを知ることが、職探しの第一歩だと思います。
スポーツ健康科学部 女性

実 際に働いている自分を明確に想像することが大切です。また、会社は学びに行く場所ではないので、働きたい、学びたいという意欲だけでなく、その仕事を通して自分に何ができるか、どのようにして社会に貢献できるのかを明確にしておく必要があると思います。
理工学部 女性

就 就職活動を通じて、多くの人に出会おうと思います。同じ就職活動生、インターンシップで出会った友達、大学のOB・OG、社会人の先輩方など…何もアクションを起こさなければその場だけの付き合いになると思いますが、少しアクションを起こすだけで、そのつながりが一生ものになったり、自分とは全く異なる考えが聞けたり…ということが就職活動では多々あります。そこで広げた人脈、吸収した考えは将来、皆さんにとって大きな糧になると思います。「一期一会」この言葉を胸に、最後まで頑張ってください。
理工学研究科 男性

工 ントリーシート、面接の完成度はいかに多くの人に吟味してもらえるかに大きく関係します。友人、家族、キャリアセンター等を大いに活用してください。
生命医科学研究科 男性



学生有志が同立戦応援ポスターを制作!



主将 ver.

ポスターの詳細は下記のURL、
もしくはQRコードからご覧いただけますので、ぜひご覧ください。

http://www.d-live.info/program/movie/index.php?c=program_view&pk=1476335077



関西学生野球連盟リーグ戦の秋季リーグ最終戦「同立戦」を盛り上げるため、同志社大学および立命館大学の学生有志が合同応援チームを結成し、オリジナルポスターを制作しました。

両大学の対決は、1930年ごろが最初と言われており、毎年春と秋に、関西学生野球連盟リーグ戦の最終日程としてわかさスタジアム京都（京都市西京極）で実施されています。伝統的に、学生や卒業生らが球場へ足を運び両大学の応援団を中心に、応援合戦が繰り広げられています。また、一般市民の方々にもファンは多く、「同立戦」や「立同戦」との愛称で親しまれています。

ポスターの種類は「主将 ver.」「主力選手 ver.」「着物 ver.」の3種類あり、モデルに野球部員や他の体育会クラブの部員を起用し、学生たちが試行錯誤の上、完成させました。

試合は残念ながら立命館大学に惜敗する結果となってしまいましたが、野球部だけではなく周りの学生も伝統の「同立戦」を盛り上げ、大学全体で野球部を応援できたのではないのでしょうか？

この悔しさをバネに春季リーグでの奮闘を祈っています！

(広報課)

フランス留学日本縦断プロモーションツアーを開催!



10月18日、今出川キャンパスサルクタスコートにて、フランス留学日本縦断プロモーションツアーを開催しました。当日は、主催するCampus France（フランス政府留学局・日本支局）のスタッフの他に、派遣留学生制度で実際にフランスへ留学していた本学学生2人も運営

スタッフに加わり、自身の経験を交えながらフランスやフランス留学の魅力について発信しました。

スタッフとして参加した法学部4年次生の繁田有美さんは、「フランスでは主に歴史や安全保障、EU政治の授業を英語で、語学の授業をフランス語で取りました。特にEU政治では、フランスを始めヨーロッパ内でタイムリーに問題となっていたテロリズムの脅威や難民危機を、肌で感じながら勉強できたのが非常に印象的でした」と留学の意義について語ってくれました。また、「語学面や講義についていくことで苦労も大きかったのですが、多くの人に助けられながら、とても充実した留学生活を送ることができました。英語だけでなくフランス

語も上達させることができたのも良かったです。非英語圏ですが、フランスには英語とフランス語どちらでも授業が受けられる学校もあり、決してハードルが高い留学先国ではないと思います。在学生の皆さんにはぜひ一歩踏み出して挑戦してほしいです」と留学を考えている学生へメッセージをいただきました。

当日は200人を超えるブース訪問者があり、留学の準備方法や留学中の現地での生活、就職活動への取り組み方など、熱心に質問する学生も多く見受けられました。本イベントを本学で実施するのは今回が初めてですが、経験者から直接話を聞く良い機会になったのではないのでしょうか。

今後もこのようなイベントを実施する際には、大学ホームページや掲示等でお知らせしますので、興味のある方は積極的に参加してください。

(国際課)



平成28年 司法試験合格者発表

9月6日、本年5月に実施された司法試験の合格者が発表されました。全国の合格者は1,583人、合格率は22.9%であったところ、本学司法研究科(法科大学院)修了者の合格者は17人(全国第17位)、合格率は13.3%(全国第23位)という結果でした。日頃から厳しい勉学に励み、難関を乗り越えることができた合格者を心から祝福するとともに、本学で身につけた学識を糧として、「良心を手腕に運用する」法曹として、存分に活躍することを期待しています。

法科大学院を取り巻く環境は、引き続き厳しい状況にあります。同志社の精神である良心教育のもと、その薫陶を受けた法曹を一人でも多く輩出できるように、本研究科の教職員一同、より一層力を尽くして在学生および修了生の指導にあたる所存です。

(司法研究科)

平成28年司法試験 法科大学院別合格者数

順位	大学名	合格者数(合格率)
1	慶應義塾大学	155人(44.3%)
2	早稲田大学	152人(35.8%)
3	東京大学	137人(48.1%)
4	中央大学	136人(29.4%)
5	京都大学	105人(47.3%)
6	一橋大学	63人(49.6%)
7	大阪大学	42人(26.8%)
8	神戸大学	41人(32.3%)
9	九州大学	36人(28.8%)
9	明治大学	36人(12.1%)
11	名古屋大学	34人(25.0%)
12	北海道大学	30人(23.4%)
13	立命館大学	29人(13.6%)
14	首都大学東京	25人(19.5%)
15	東北大学	23人(24.0%)
16	上智大学	19人(11.6%)
17	千葉大学	17人(19.8%)
17	同志社大学	17人(13.3%)
19	広島大学	15人(20.3%)
19	関西学院大学	15人(12.2%)
19	法政大学	15人(11.7%)
19	関西大学	15人(11.1%)

「災害ボランティアに係るパートナーシップ宣言」の表明披露



10月16日、本学を含めた京都市内の5大学(同志社大学、京都産業大学、佛教大学、立命館大学、龍谷大学)のボランティアセンターと京都市社会福祉協議会は、「災害ボランティアに係るパートナーシップ宣言」の表明披露を行いました。

この宣言は、近年災害が頻発する中、災害ボランティアセンターの設置・運営や、他の被災地への災害ボランティアリーダーなどを担う人材の更なる育成

や確保が必要となっており、「大学のまち京都」としての特性を活かした取り組みが求められていることから、京都市内の大学ボランティアセンターと京都市社会福祉協議会が新たなパートナーシップを構築することにより、平時から災害に備えるとともに、災害が発生した際には共にその対応にあたることを表明したものです。

今後は、京都市社会福祉協議会と京都市内の大学ボランティアセンターの連携・協力をさらに発展させることにより京都市における災害ボランティアに関する取り組みがさらに促進され、また大学間の学生ボランティア同士の交流や各大学におけるボランティア活動の活性化などの効果が生まれることが期待されます。

(ボランティア支援室)

今出川校地 おしチャリ開始!

秋学期が始まりキャンパスに活気が戻ってきた10月1日から、今出川校地内の各キャンパス(今出川・新町・室町・烏丸)における自転車通行は、乗車通行が全面禁止となり、自転車から降車して曳行通行する「おしチャリ」となっています。

全国的に自転車による悪質な違反行為が急増しており、本学でも学生の自転車運転マナーに関するトラブルが多発していたことから、自転車運転マナー向上の一環として実施されています。他にも自転車を利用する学生に自転車運転マナー講習会の受講を義務付ける取り組みを開始しています。

キャンパス内の安全のため、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

(広報課)





岡崎体育 登場!!!



11月6日、京田辺キャンパスにて行われた同志社クローバー祭に、文化情報学部出身で大人気のミュージシャン、岡崎体育さんが凱旋、大聴衆を前にパワフルでユーモア溢れるライブを展開しました。普段出演しているフェスやライブとは異なり、お子さんから年配の方までを相手に、次第に岡崎ワールドに引き込んでいき、最後には全員で飛び跳ねる盛り上がりよう。みんなが楽しみ、大いに元気をもらいました。

自身もサラリーマンから転身し、現在の活動をしているという岡崎さん。在学生に対して「夢

をあきらめず、自分の気持ちに正直に将来の道を選択してください!」とメッセージをいただきました。岡崎体育さん、また同志社大学に来てください!

(広報課)



第9回 新町祭を開催!

12月10日、新町キャンパスにて「第9回 新町祭」が開催されます! 新町祭とは、「地域と学生が作りあげる学園祭」というテーマのもと、2008年から開催されている関西最大級のキャンドルナイトイベントです。キャンパス内を手作りのキャンドルで飾りつけ、ステージでは学内外の団体のパフォーマンスや教室での活動紹介などを実施しています。

主催しているのは、同志社大学登録団体SAP (Shinmachi Activate Project) という団体で、新町キャンパスに拠点を置く社会学部と政策学部の学生約50人で構成されています。新町キャンパスの活性化を目的に、新入生を対象とした「フレッシュャーズキャンプ」や「新町七夕祭り」などのイベントを実施しています。

団体の代表である政策学部3年次生の



小野田真俊さんにイベントへの意気込みを聞いてみると、「自分自身が代表となり、地域住民の方々とつながりをより強めたいと感じています。新町祭に使用する手作りのキャンドルは地域の幼稚園や小学校、介護施設の方々とともに制作し、昨年度より5,000本多い、20,000本のキャンドルを準備する予定です。団体の代表として、所属する一人



ひとりのメンバーの力を最大限に引き出して最高のイベントにできればと思っています」と語ってくれました。

学生が主体となって作る色とりどりのキャンドルで飾られた新町キャンパスにぜひお越しください。

(広報課)

SAPの活動は下記からご覧いただけます。

HP <https://sap.amebaownd.com>

Twitter [sap_candle](#) Instagram [sap_candle](#)

HPの
QRコード



※なお、新町祭は雨天の場合、12月18日(日)に順延となります。



本学教員の執筆図書紹介

図書館調べ(価格は税別)

基礎から学べる会社法 第4版

釜田薫子 他 著 弘文堂 2,500円

助動詞

藤井俊博 他 著 明治書院 3,800円

変化と転換を見つめて

岸文和 他 著 風媒社 3,500円

二重の罟を超えて進む 中国型資本主義

厳善平 他 著 ミネルヴァ書房 6,000円

公共訴訟の救済法理

川嶋四郎 著 有斐閣 7,000円

ソーシャルワーク・ スーパービジョン論

黒木保博 他 編著 小山隆 他 著
中央法規出版 7,000円

判例憲法 第3版

尾形健 他 著 有斐閣 2,700円

ナミビアを知るための53章

峯陽一 他 著 明石書店 2,000円

台湾をめぐる安全保障

浅野亮 他 著 慶應義塾大学出版会 3,800円

基本刑法I 総論 第2版

十河太朗 他 著 日本評論社 3,800円

ビジネスをデザインする

関智宏 他 著 ミネルヴァ書房 2,800円

企業変動における労働法の課題

土田道夫 他 編著 有斐閣 4,700円

「慰安婦」問題・日韓「合意」を考える

岡野八代 他 著 彩流社 1,000円

明日に架ける歴史学

川越修 石井香江 他 著 ナカニシヤ出版
3,200円

明治維新と宗教・文化

田中智子 他 著 有志舎 3,400円

シークワサーの知恵

津村宏臣 他 著 京都大学学術出版会
6,600円

よくわかる社会福祉 第11版

空閑浩人 野村裕美 他 著 ミネルヴァ書房
2,500円

よくわかる権利擁護と成年後見制度

永田祐 他 編著 ミネルヴァ書房 2,500円

東アジアの文化・生活・環境に 関する意識調査

鄭躍軍 編 鄭躍軍 金明哲 田口哲也
木下麻奈子 他 著
同志社大学東アジア総合研究センター

総合政策科学の過去・現在・未来

真山達志 今川晃 藤本哲史 今里滋
伊多波良雄 川浦昭彦 風間規男 三好博昭
武蔵勝宏 中川清 中田喜文 新川達郎
徳岡一幸 山谷清志 橋本圭多 井上恒男 他 著
晃洋書房

総合政策科学の現在

真山達志 足立光生 オフェル・フェルドマン
藤本哲史 井口貢 今川晃 今里滋 柿本昭人
川口章 川井圭司 川上敏和 川浦昭彦 風間規男
久保真人 三好博昭 武蔵勝宏 中川清 根岸祥子
新川達郎 野間敏克 大島佳代子 岡本由美子
多田実 田中宏樹 月村太郎 山谷清志 他 著
晃洋書房 3,200円

国際法 第3版

新井京 他 著 東信堂 2,900円

大学のIR

山田礼子 他 編著 慶應義塾大学出版会 2,500円

現代日本の政治

武蔵勝宏 他 著 法律文化社 2,800円

国際私法

林貴美 他 著 成文堂 3,900円

憲法のポリティカ

岡野八代 他 著 白澤社 2,200円

地方自治法入門

佐伯彰洋 他 編著 黒坂則子 他 著 成文堂 2,000円

基礎から学ぶ財政学

伊多波良雄 川浦昭彦 他 著 晃洋書房 2,800円

変革期イスラーム社会の宗教と紛争

四戸潤弥 他 著 明石書店 2,800円

すべての人は芸術家である

岡林洋 著 晃洋書房 1,700円

災害と復興の社会学

立木茂雄 著 萌書房 3,000円

女性から描く世界史

水谷智 他 著 勉誠出版 3,200円

法思想の水脈

戒能通弘 濱真一郎 他 著 法律文化社 2,500円

民事手続法制の展開と手続原則

徳田和幸 他 編著 林昭一 他 著 弘文堂 13,000円

地獄と煉獄のはざままで

石坂尚武 著 知泉書館 8,500円

新版 史料で読む日本法史

西村安博 他 編著 北康宏 他 著 法律文化社 3,300円

知的財産法II 著作権法

山根崇邦 他 著 有斐閣 1,800円

Japan and Japanese people

服部伸 他 著 LIT VERLAG

憲法の基本 第3版

尾形健 他 著 法律文化社 2,600円

日本人の考え方世界の人の考え方

池田謙一 編 池田謙一 他 著 勁草書房 4,300円

分子細胞生物学 第7版

石浦章一 他 訳 東京化学同人 8,300円

マクロ経済学の視点 改訂版

清川義友 北川雅章 新関三希代 辻村元男
東良彰 著 八千代出版 2,900円

事例研究会社法

釜田薫子 他 著 日本評論社 3,000円

途上国における 軍・政治権力・市民社会

鈴木絢女 他 著 晃洋書房 4,000円

リーディングス刑事政策

川本哲郎 他 著 法律文化社 5,300円

アジアの企業間競争

太田原準 他 著 文眞堂 2,800円

中東と日本の針路

森山央朗 他 著 大月書店 1,800円

Memory of the past and its utility : supplement

中井義明 他 著 Scienze e Lettere

「一年生調査2010年」 調査報告書

山田礼子 他 著
同志社大学高等教育・学生研究センター

大衆文化とナショナリズム

全美星 竹内幸絵 他 著 森話社 4,500円

教育の原理

中川吉晴 井上智義 他 著 樹村房 1,900円

教養のための統計入門

宿久洋 他 編著 実教出版 2,300円

トポロジーデザインング

剣持貴弘 他 著 エヌ・ティー・エス 42,000円

ベーシック条約集 2016年版

坂元茂樹 他 編 東信堂 2,600円

イギリス現代政治史 第2版

カウ昌幸 他 編著 ミネルヴァ書房 3,000円

中国の海上権力

浅野亮 他 編著 創土社 2,800円

例題で学ぶ基礎電気回路

秋山いづき 著 森北出版 2,400円

Q&Aスポーツの法律問題 第3版補訂版

川井圭司 他 著 民事法研究会 2,400円

動物たちは何を考えている？

青山謙二郎 畑敏道 他 著 技術評論社
1,580円

ロマン主義エコロジーの詩学

金津和美 他 著 音羽書房鶴見書店 4,000円

セルロースナノファイバー 技術資料集

藤井透 大窪和也 他 著 シーエムシー出版
66,000円

憲法改正とは何か

阿川尚之 著 新潮社 1,400円

中東の新たな秩序

岩坂将充 他 著 ミネルヴァ書房 3,800円

英語学パースペクティブ

龍城正明 編著 中井悟 菊田千春
菅原真理子 他 著 南雲堂 3,200円

Messages from International Students

留学生紹介



ウォルター・ピュージル さん

2016年8月～2017年4月

AKP同志社留学生センターに在学(アメリカ出身)

カールトン大学に入学した時、外国語の授業を選ばなくてはならなかったのですが、日本語を勉強し始めました。日本語は楽しそうに思えたので、あまり深く考えずに選びました。習い始めたら日本語は僕にとって大切なものになり、だんだんと僕の生活を変えていきました。昨年、JASC という学生間で日米関係を話し合う日米学生会議に参加して、初めて日本に来ました。多くの優しい人に会い、様々な会話の中で新しい意見を聞いたので、一カ月間の会議がとても充実したものになりました。会議の前に国際関係の分野に興味はありましたが、英語しか話すことができない僕は英語以外を話す人々との間に距離があると思っていました。しかし、日米学生会議の経験のおかげで、言葉の壁を破り

When I first entered Carleton College, I decided on a whim to take Japanese. It seemed like something fun to try at the time and I didn't think too much of it. Little did I know how much it would come to change my life. Last year I participated in JASC, a student conference aimed towards getting student involved in Japanese American relations, and was blown away by all of the amazing experiences I gained in such a short amount of time. I had always had an interest in international policy and communication, but I had always felt separate from the rest of the world because of my lack of language ability. JASC allowed me to see beyond this barrier, and realize how important it is to maintain good relations between Japan and America. By the end of the conference my mind was made up; I decided to work as hard as I can to become an American diplomat.

Here in Kyoto, I have an incredible opportunity to immerse myself in Japanese and gain a new perspective as I learn to communicate with people who are so different, yet so much the same. I feel like I meet new people every day who encourage me even more to follow my dream. Doshisha has given me an incredible chance to learn as much as I can about Japanese culture, and I hope that I can use it to the fullest. To my Doshisha peers, if you want to talk about international affairs or even just about how your day is going, I welcome your company and the Japanese conversation practice.

Walter Pugil

僕がこの大切な会話に参加できることに気づきました。会議が終わった後、頑張って外交官になろうと決めました。

京都に留学することは、日本語に浸り僕と違った人々や似たような人々とのコミュニケーションから新しい視野を得られる大切な機会です。僕は毎日のように色んな方々に出会い、そしてその人たちから自分の夢を叶える勇気もらっていると感じています。同志社大学のおかげで日本文化を学ぶための信じられないほどの貴重なチャンスももらったので、このチャンスを最大限に活用したいと思っています。同志社大学生の皆さん、国際政治やありふれた日常のできごとなどについて僕と日本語で話しませんか。

ウォルター・ピュージル

INTERVIEW

同志社人 訪問

上山 友裕 さん
〔2010年 商学部 卒業〕

中野 希望 さん
〔政策学部 3年次生〕

リオデジャネイロ2016パラリンピック競技大会 アーチェリー・リカーブ男子個人代表

上山 友裕さんに聞く

今回の同志社人

上山 友裕 さん

〔2010年 商学部 卒業〕

うえやま・ともひろ 1987年生まれ。大阪府東大阪市出身。同志社大学アーチェリー部で活躍後、食品会社に就職。2010年の冬に両下肢機能障害を発症。翌年の春から本格的にパラアーチェリーに取り組む。2012年にジャパンパラアーチェリー競技大会で優勝。翌年、タイで開催された世界選手権にも出場し、国際大会初挑戦も果たす。2014年、三菱電機株式に転職。2015年にはAAEアリゾナカップ金メダル、日本身体障害者アーチェリー連盟杯銀メダル、全国身体障害者アーチェリー選手権金メダル。2016年にリオデジャネイロ2016パラリンピック競技大会のリカーブ男子個人代表。

今回のインタビュアー

中野 希望 さん

〔政策学部 3年次生〕

なかの・まほ 香川県出身。社会の動向を多角的な視点から捉え、多彩な分野で生かせる「政策」スキルを学ぶために政策学部を選択。高校時代からアーチェリーを始めたが、目標としていた国体出場を果たせず、さらに技量を磨くために大学でもアーチェリー部に入部。現在、女子のチームリーダーを務めている。

風や雨などの状況を読み切る緻密さ、得点のみで決まる明快さが魅力。次の東京パラリンピックに向けて技術力と精神力の双方をさらに鍛え抜き、感動してもらえる最高の試合で、パラアーチェリーの頂点を極めたいと語る上山さんに現役アーチェリー部員が迫ります。

同期にも教えを乞い 2年次にレギュラーを奪取

中野 アーチェリーとの出会いについて聞かせていただけますか。

上山 同志社香里高等学校3年生の時に友人が「大学に進学したら、アーチェリー部を見学したいので、同行してくれないか」と声を掛けてきました。その一言がアーチェリーというスポーツに関心を抱くきっかけになりました。入学後、彼に連絡を取ると「もう見学に行ってきた…」と言うので、一人で体験入部に出かけました。全く初めての経験でしたが、近距離に置か

れた的代わりの風船を射ると、見事に命中。「おおっ!」と思った次の瞬間、美人の先輩に「すごい!センスある!この用紙に名前と学部と電話番号を記入して…」と畳みかけられて、気がつけば入部していました(笑)。

中野 それまで未経験だったのにすぐに頭角を現されたようですね。

上山 当初は強い意気込みもなく始めたアーチェリーでしたが、練習を重ねるうちに、面白くなっていきました。風や雨などの諸条件も計算に入れながら標的を狙う…その緻密さ、得点のみで全てが評価される明快さに魅力を感じました。ただ、入部してから



INTERVIEW

同志社人 訪問

尽きることのない目標への挑戦。それが私のアーチェリーです

知ったのですが、同志社大学のアーチェリー部は1960年創部という伝統を誇り、オリンピック出場者も輩出している大学屈指のクラブです。同じ年に入部した部員のうち約半数が推薦入学でした。その中には高校の日本代表もいる。実力の差は歴然で、正直「続けられるのかなあ…」というのが実感でした。日々、先輩や同期に教えを乞い、「昨日よりも必ず高得点を…」という思いを胸に、納得できるまで練習を繰り返しました。得点を左右する道具のメンテナンスも徹底的に行いました。その結果、右肩上がりで得点が伸び、2年次生の時にはレギュラーの座を獲得し、他大学の選手からも注目されるようになりました。当時は傲慢にも「このままいけば、オリンピックも夢ではない…」と思うほど意気軒昂でした。しかし、道具を世界的に評価の高いものに切り替えてから得点が低迷し始めたのです。優れた道具と自分に合った道具は違います。次第に自分のフォームも崩れてしまいました。この時が一番苦しかった。4年次生の

頃にはアーチェリー場から足が遠のいてしまった時期もありました。そのような状況に陥っていた私を再びアーチェリーの世界に呼び戻してくれたのは、就職先の関連会社にあったアーチェリー同好会からの実業団大会参加への打診でした。

座して的確を狙う難しさを 自宅の特訓場で克服

中野 パラアーチェリーに挑まれるようになった経緯は。

上山 現在の症状に襲われたのは、2010年の冬、仕事帰りの時でした。電車に乗ろうと走りかけたのですが、足がついてこない。医師の診断は病名も原因も不明、症状としては両下肢機能障害です。通院しても改善の兆しはなく、次第に松葉杖なしでは歩けなくなりました。その後もアーチェリーは続けていたのですが、ある日、練習場の管理人の方に声をかけられました。「パラアーチェリーは若い選手が少なく、高齢化がどんどん進んでいる。やってみないか？」という誘いでした。

思いがけないことで、戸惑いましたが、当初はパラアーチェリーの大会に出場できる資格も得ておこうといった軽い気持ちでこの世界に飛び込みました。

中野 そこから今日に至る大活躍が始まるわけですね。

上山 パラアーチェリー選手として本格的に活動を開始したのは2011年の春からです。最初は何とか立って試合に臨んでいましたが、やがてイスを使うようになり、2年後には公的な許可を得て車イスを用いるようになりました。座して的確を狙うのは非常に難しい。それまでの的を見下ろしていたのが、見上げることになり、肩の位置も根本的に違ってくる。アーチェリーは繊細な感覚が重要なスポーツですので、大きな違和感が生じます。しかし、練習量でカバーして乗り越えるしかない。自宅のガレージに設けた手作りの練習場で猛特訓を続けました。重ねた5枚の畳に描いたバツ印が的でした。試合が近づくとアーチェリー場の70m先の的に向けて毎日5時間以上、



約300本の矢を射ました。その甲斐あって2012年のジャパンパラアーチェリー競技大会で優勝。翌年の全国身体障害者アーチェリー選手権も制し、タイのバンコクで開催された世界選手権にも挑むことができました。この時、ロシアの選手から聞いた練習量には圧倒されました。圧倒的に自分の練習時間は世界水準に届いていない。これが練習に全てを捧げられる新たな環境を探す契機になりました。日本オリンピック協会の仲介を得て転職できた現在の三菱電機㈱の環境は理想的なものであり、とても感謝しています。また、昨年、結婚して家庭も持つことができました。妻は長崎で開催された健常者のアーチェリー大会でサポートを務めてくれた女性です。長男が生まれてから、なぜか成績も安定するようになりました(笑)。

観客が満員の競技場で 栄冠を勝ち取る

中野 今年、見事にパラリンピック出場を果たされましたね。

上山 本年6月にチェコで開催された世界最終予選のリカーブ・パラ男子個人部門で3位に入り、リオデジャネイロへの出場権を獲得することができました。前年度は大きく調子を崩していたので、「やった!」というよりも「よかった!」という安堵の気持ちが大きかったです。「リカーブ」は一般的に用いる洋弓のことです。これに対して弦を引く力が弱くても矢を放てるように先端に滑車が設置されたものを「コンパウンド」と呼びます。個人戦は1対1の勝ち抜き方式です。1回3射ずつで競い、勝った選手が2ポイント(同点は各1ポイント)を得ることができ、先に6ポイントに達した方が

勝者になります。間近になって練習のし過ぎで右肩を痛めてしまい、万全のコンディションで試合に臨むことはできませんでしたが、ベストは尽くしました。2回戦まで勝ち進み、準々決勝では優勝したイランのラヒーミー選手に敗れ、メダルには手が届きませんでした。後悔はないのですが、自分では勝てる可能性があったと感じているので、悔しさはすごく残りました。この貴重な経験を糧に次の東京パラリンピックに向けて練習するのみです。併せてメンタル面の強化も図りたい。敗退した準々決勝の録画映像を見直してみると、自分では意識していないのですが、表情も身体も少し硬くなっていました。優勝を争うような決戦の時にも平常心を保てるようであれば、100%の実力は出せません。技術力と精神力の双方をレベルアップすれば、今よりも確実に上に行けるはずですよ。

中野 アーチェリーを通じて学ばれたことを教えてください。

上山 スポーツ全般に言えることだと思いますが、目標設定の重要性です。必死になって一つ目標をクリアすれば、その向こうに次の目標が出現します。その繰り返しです。目標がなくなった時が、引退の時だと思っています。もう一つは、あらゆる機会を積極的に捉えて自分に役立つことを吸収

すること。できる限り多くの人に出会い、意見を聞き、情報を得て、これを生かすことです。例えば、私は英語が苦手ですが、臆することなく外国の選手にも話しかけています。気持ちがあれば、片言でも何とか通じます。具体的な練習方法やコーチからのアドバイスの内容などを知るだけでも、勉強になります。納得できれば、すぐに試してみます。

中野 母校である同志社大学の後輩の皆さんへのメッセージをお願いします。

上山 なるべく早い時期に明確な目標を見いだしてほしいですね。それが決まったら、そこに到達するためにしなければならないことを着実に成し遂げる。そうすれば、大きな夢もきっと実現できます。例えば、私の現在の目標は東京パラリンピックに出場して金メダルを獲得することです。もう、具体的なイメージができあがっています。観客席が満員の競技場で、熱闘の果てに栄冠を勝ち取る。いつも同じシーンを想像しています。この最終目標のために、日々段階的にやるべきことをやり遂げる。私が一番大切にしていることは応援してくれる方々に、熱狂できるような最高の試合をお見せすることです。その時、アーチェリーは脚光を浴びるメジャーなスポーツになっているはずです。

インタビューを終えて

アグレッシブな姿に圧倒されました 上山先輩はアーチェリー部のあこがれです

以前から感じてはいましたが、今日は改めて上山先輩の揺るぎないポジティブな姿勢に深い感銘を受けました。両下肢機能障害も私の場合なら立ち直れないほどのショックを受けるとは思いますが、「むしろプラスになったことの方が多い」とおっしゃる。「常に次の目標を見だし、全力を注いでこれをクリアする」という言葉も心に深く響きました。応援してくれる方々が楽しめるような試合がしたいという考え方も、今日までの私にはないものでした。東京パラリンピックで頂点を極めてほしいし、必ずできると確信しています。私たちも競技場に駆けつけて精一杯の大声援を送るつもりです。



インタビューー
中野 希望 さん【政策学部 3年次生】

My Job, My Life

第72回

はら だ りょう
原田 諒さん

[2004年 法学部法律学科卒業]

宝塚歌劇団 脚本・演出家

2003年宝塚歌劇団入団。2010年『Je Chante』で演出家デビュー。
2012年『ロバート・キャパ 魂の記録』『華やかなりし日々』で読売演劇大賞優秀演出家賞、ミュージカル・ベストテン演出家賞を受賞。2016年2～3月『For the people』は読売演劇大賞上半期ベスト5に選出。現在、花組公演 宝塚舞踊詩『雪華抄』を上演中(宝塚:~12/13、東京:2017年1/2~2/5)。2017年4~5月『瑠璃色の刻』が控えている。

宝塚歌劇だからこそ創り得る「愛」や「夢」の世界 届けられるようこれからも精進していきたい

大学3年次生の時に宝塚歌劇団演出部の募集広告を見たことが、現在の仕事に就くきっかけになりました。映画や演劇が好きな両親の元で育ちましたので、いつかはそういった分野の仕事がしたいと思っていましたし、宝塚は幼い頃からよく見ていましたので、これは大きなチャンスだと入団試験を受けたところ、運良く採用していただいたのです。在学中の4年次生の時から演出助手をさせていただき、稽古場での仕事、脚本の書き方、演出の仕方、生徒(劇団員)への接し方など、見よう見まねで覚えていきました。大学時代に演劇サークルなどに入っていたわけでもなく、文字通り白紙の状態からのスタート。上下関係やしきたりの厳しい世界ですから叱られることも沢山ありましたが、演劇人として育てていただいただけではなく、人間としても大いに鍛えていただいたと心から感謝しています。

宝塚歌劇では脚本・演出の両方を一人の人間が手掛けます。作・演出に取り組んだ処女作は、「ラ・メール」や「詩人の魂」などで知られるフランスの国民的歌手、シャルル・トレネの若き日を描いたミュージカル『Je Chante—終わりになき喝采—』。われわれの仕事は主演者が決まると、彼女の魅力を最大限に引き出す企画を考えるとところから始まります。ですから単にダンスが得意、歌が得意、という主演者の技量だけではなく、出演

者の個性も知っておく必要があります。大胆に見える男役がとても繊細な性格だったり、楚々とした娘役が、実はとても激しい気性の持ち主だったりすることもある。そういった部分もよく見極め、時に化学変化も期待しながら企画し、脚本を練り上げ、音楽や振付など、様々なスタッフとの打ち合わせを重ねたのち、稽古に臨みます。『Je Chante』では主演の^{なぎな}七瀬海^{るみ}の明るく誠実な性格と卓越した歌唱力を生かそうと思いましたが、『ロバート・キャパ 魂の記録』では、当時端正な美貌が売りとされていた男役スター^{おうき}風^{ふう}稀^きかなめに、激動の時代を生き抜いた戦場カメラマン、ロバート・キャパ役を通して新境地を開拓させたいという思いから、宝塚では取り上げることがなかなかない戦場物にあえて挑戦しました。結果、この役が彼女の当たり役となり、トップスター就任後に再演できたことは作者冥利に尽きる経験でした。

作品をつくるにあたり、集める資料は膨大な量になります。ですが、大切なのはその行間を読み解き、いかにして人間を、その感情を描いていくかということ。宝塚の出演者は女性ですから、性別、国籍、時代を超越して様々な作品に挑戦できる。夢の国の住人であるタカラジェンヌだからこそ、現実にはあるかどうか、確かかどうかかわからない——だけれどもあってほしいと誰もが願う

「愛」や「夢」を、舞台に体现できると思うのです。いかに時代が変わろうと、宝塚はいつまでも美しい夢の花園であってほしいですし、それに相応しい作品をつくっていききたいですね。この秋、作・演出を手掛けた宝塚舞踊詩^{せつかしやう}『雪華抄』(宝塚~12月13日、東京2017年1月2日~2月5日)は、四季の移ろいと花鳥風月の趣をテーマに繰り広げる宝塚ならではの豪華な日本物レビューです。花組トップスター明日海りおの魅力を存分に堪能していただける作品に仕上がりました。ぜひご覧いただければと思います。



稽古を前に舞台美術と衣装の打ち合わせ



宝塚舞踊詩
『雪華抄』

私と「仕事」

学生時代からの夢を追い続け、
多彩な分野で活躍する卒業生を訪ね
仕事に挑む熱い思い、
今後の目標などをインタビュー。
その姿が学生の皆さんの将来の
キャリア・プランに役立てば幸いです。

なが お かな
長尾 香奈さん

[2010年 工学研究科数理環境科学専攻修了]
大阪ガス株式会社
リビング事業部 商品技術開発部 リビング商品開発チーム



最初に挑んだ商品開発はガス炊飯器「直火匠」 試行錯誤の連続だったが、モノづくりの醍醐味を実感した

小学生の頃から理数系の科目が好きで、モノを創り出す仕事に携わりたかったので就職活動はメーカーを第一志望にして取り組んでいました。大阪ガスに就職する決め手になったのは、「人」でした。人事部の方の親身な対応に感激し、「この会社ならどのような部署に配属されても納得して働くことができる」と思いました。その直感は見事にあたり、非常に面倒見の良い会社だと感じています。直属の上司からの「頭の良い人はいくらでもいるが、あなたのように自分の利益を度外視して全力で突っ走れる人はなかなかいない。その姿勢や仕事のスタイルをなくさないように」という助言も心に深く残っています。

希望が叶い最初の配属先が商品技術開発部に決まった時は、しばらく信じられず、夢心地で過ごしました。「感謝を忘れず、早く成長したい」と思ったことを今でも鮮明に憶えています。最初の本格的な仕事はガス炊飯器「直火匠」のフルモデルチェンジで、東京ガス、東邦ガス、リンナイとの4社共同での開発でした。炊飯器は購入されたお客様の日々の主食の味を決めることになります。長年のファンの方も数多くおられたので、責任は重く、大きなプレッシャーを感じました。商品開発で最も苦労したのは、甘みと

おこげのバランスです。火加減を微妙に変えては炊き、試食を繰り返す、試行錯誤の日々が続きました。前モデルを開発した上司からのアドバイスやデータなども役立てながら、納得できる味に仕上がった時は感無量でした。4社での全体会議で、自社の主張をうまく受け入れていただくことができた経験も感慨深い思い出です。緻密な調査データを基に相手を説得し、調整する技量や度胸もこの仕事で養われました。続けて取り組んだ「スマートコンロ」では、スマホアプリの開発を担当し、新たな分野に挑戦できました。これらの貴重な経験を起点に、今後は自分で立案したテーマを提案し、実現できればと考えています。

振り返ると、大学院での日々も、大きな糧になりました。研究室の盛満正嗣教授は企業人であった時の貴重な経験を積極的に語られ、社会の仕組みなどについてもわかりやすく教えてくださいました。国外を含む学外での発表の機会も数多く与えてくださり、これらによって社会人としての礎が培われたと実感しています。同志社には中学校から12年間もお世話になりましたが、数多くの学びと出会いがありました。本当に恵まれた環境だったと感謝しています。

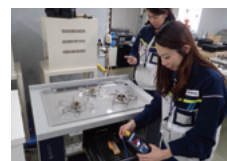
One day on the job



🕒 9:00
担当の商品について社内で行き先を確認します



🕒 10:30
試作品を作り、もっと使い勝手をよくできないか、改良できるところはないか、検討します



🕒 14:00
開発中の商品で実際に調理をして温度、火加減などのデータを取ります



🕒 15:00
調理したものを実際に試食して確認します。競合商品を使って食べ比べをすることも



DIY
オフの時間を使って簡単な家具は手づくりしています!

WOT(ワット)= "What's On Thursdays!"



「木曜日には何かがある!」を合言葉に、開講期間中の毎週木曜日、映画上映を中心に多彩なイベントを開催します。

【会場】寒梅館ハーディーホール

【料金】本学学生・教職員は全て無料/一般は有料

- 12月1日(木) ポーランド映画祭2016 in 京都 *詳細未定
- 12月8日(木) 映画上映『団地』10:45/13:30/16:00/18:30
2016年/日本/103分/監督:阪本順治/出演:藤山直美、岸部一徳
料金:一般1,300円、Hardience会員・学生・前売1,100円
- 12月15日(木) コンサート『THE DUO SESSION vol.2』
お問い合わせ:エースプロモート TEL:06-6341-1171

【お問い合わせ先】

今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

※内容は都合により変更となる場合があります。詳細はお問い合わせください。

クローバーシアター



開講期間中の毎週火曜日、寒梅館のミニシアター・クローバーホールでは、映画史に残る名作を中心に様々なイベントを開催します。

【会場】寒梅館クローバーホール(地階)

【料金】本学学生・教職員は全て無料/一般は催しにより有料

- 12月6日(火) 映画上映 *詳細未定
- 12月13日(火)
《連続講座 映画以内、映画以後、映画辺境〜京都編vol.2》
*詳細未定

【お問い合わせ先】

今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

※内容は都合により変更となる場合があります。詳細はお問い合わせください。

♪観に行こう聴きに行こう♪ 一学生団体12月の活動予定一

【学内】

- 12月2日(金)・9日(金) KOREA文化研究会 「日韓関係史講座」
今出川 至誠館1番教室 18:25 ~ 19:55 無料
- 12月3日(土) リーダークランツ 「創立83周年記念定期演奏会」
今出川 寒梅館ハーディーホール 18:00 ~ 20:00(17:30開場) 無料
- 12月3日(土) One Voices 「わさお杯」
京田辺 ハローホール(多目的ホール) 13:30 ~ 15:00(13:00開場) 無料
- 12月4日(日) ハンドベル・クワイア
「同志社大学ハンドベル・クワイア×関西大学ハンドベル・クワイア ジョイントコンサート」
今出川 寒梅館ハーディーホール 14:00 ~ 16:00(13:30開場) 無料
- 12月7日(水) 同志社大学学生保健部会 「献血」
今出川 明徳館西側 9:00 ~ 17:00
- 12月8日(木) 同志社大学学生保健部会 「献血」
京田辺 ローム記念館前良心碑北側 9:00 ~ 17:00
- 12月11日(日) ピアノ研究会 「クリスマスコンサート」
今出川 寒梅館ハーディーホール 15:00 ~ 18:00(14:30開場) 無料
- 12月12日(月) 喜劇研究会 「お笑いライブ」
今出川 寒梅館クローバーホール 13:00 ~ 15:00予定(12:45開場) 無料
- 12月17日(土) 同志社大学応援団 「アトムフェスティバル2016」
今出川 寒梅館ハーディーホール 13:00 ~ 16:30(12:30開場) 無料
- 12月18日(日) 法学研究会 「常設法律相談会」
今出川 寒梅館2A・2B・2C 13:00 ~ 16:30 無料
- 12月18日(日) 雅楽会 「第23回定期公演」
今出川 寒梅館ハーディーホール 17:30 ~ 19:00(17:00開場) 無料

【学外】

- 12月3日(土) グリークラブ 「第112回同志社グリークラブ定期演奏会」
京都コンサートホール大ホール 18:00 ~ 20:30(17:00開場) S席2,000円 A席1,500円
- 12月3日(土) マンドリンクラブ 「同志社大学マンドリンクラブ第169回定期演奏会」
京都府長岡京記念文化会館 19:00 ~ 20:30(18:30開場) 500円
- 12月11日(日) 吹奏楽部 「同志社大学応援団吹奏楽部 第47回定期演奏会」
八幡市文化センター大ホール 14:00 ~ (13:30開場) 無料

- 12月18日(日) 混声合唱団こまくさ 「第47回定期演奏会」
文化バルク城陽プラムホール 16:00 ~ 19:00(15:15開場) 1,000円
- 12月18日(日) 学生混声合唱団C.C.D. 「第64回定期演奏会」
八幡市文化センター大ホール 16:00 ~ (15:30開場) 500円

応援に行こう! 体育会試合日程

【アーチェリー部男子】

- 12月3日(土)・4日(日)
第21回関西学生アーチェリーインドア選手権大会 予選
大阪大学体育館 9:00~
- 12月17日(土)
第21回関西学生アーチェリーインドア選手権大会 決勝
大阪大学体育館 9:00~
- 2月14日(火)・16日(木)
第17回全日本学生室内アーチェリー個人選手権大会
千葉ポートアリーナ(千葉県) 9:00~

【アーチェリー部女子】

- 12月3日(土)・4日(日)
第21回関西学生アーチェリーインドア選手権大会 予選
大阪大学体育館 9:00~
- 12月17日(土)
第21回関西学生アーチェリーインドア選手権大会 決勝
大阪大学体育館 9:00~
- 2月14日(火)・16日(木)
第17回全日本学生室内アーチェリー個人選手権大会
千葉ポートアリーナ(千葉県) 9:00~

【アイスホッケー部】

- 1月6日(金) ~ 9日(月・祝) 第89回日本学生氷上選手権大会
未定

【ボードセーリング部】

- 12月3日(土)・4日(日) 関西選手権第三戦
琵琶湖佐波江(滋賀県)

【フィギュアスケート部】

- 12月10日(土)・11日(日)
第72回国民体育大会冬季大会 フィギュア競技予選会
群馬県総合スポーツセンターアイスアリーナ(群馬県)
- 12月10日(土) 同関戦
神戸市立ポートアイランドスポーツセンター(兵庫県)
- 12月22日(木) ~ 25日(日) 第85回全日本フィギュアスケート選手権大会
大阪府立門真スポーツセンター(大阪府)
- 1月6日(金) ~ 9日(月・祝) 第89回日本学生氷上選手権大会
北海道苫小牧市(会場未定)
- 1月27日(金) ~ 31日(火)
第72回国民体育大会冬季大会 スケート競技会
長野県長野市(会場未定)
- 2月23日(木)・24日(金) 関西学生FS競技大会
大阪府立臨海スポーツセンター(大阪府)

【柔道部】

- 12月4日(日) 第60回京都学生柔道段別選手権大会
京都産業大学第二体育館 9:30 ~
- 2月11日(土・祝) 京都府選手権大会 武道センター(京都府) 10:30 ~
- 3月5日(日) 近畿柔道選手権 いきいきランド交野(大阪府)

【水泳部】

- 12月3日(土)・4日(日) 第10回関西学生冬季公認記録会
京都アクアリーナ(京都府)
- 3月4日(土)・5日(日) 第39回関西学生春季室内選手権水泳競技大会
京都アクアリーナ(京都府)

【スキー部】

- 2月19日(日) ~ 24日(金) インカレ 青森県大鰐町
- 3月8日(水) ~ 13日(月) 第87回全関西学生スキー選手権大会
新潟県妙高高原

【卓球部男子】

- 12月9日(金) ~ 11日(日) 第2回オール西日本大学卓球選手権大会
隠岐の島 レインボーアリーナ(島根県)

第27回 同志社京田辺 クリスマス燭火讃美礼拝

クリスマスはキリストの誕生を記念し、全ての人が愛と信頼によって結ばれる未来を待ち望む祝祭です。キリストの希望を象徴するキャンドルライトの光のもと、ともにクリスマスの礼拝を捧げましょう。皆さんのご来場をお待ちしています。なお、礼拝では手話通訳が行われます。

【日時】12月10日(土)

開場16:00 / 開始16:30(終了予定18:00) 入場無料

【会場】京田辺校地 同志社新島記念講堂(女子大学構内)

【お問い合わせ先】

京田辺校地 キリスト教文化センター事務局 TEL:0774-65-7370

アドベント*礼拝

*アドベント(Advent)という単語は「到来」を意味するラテン語Adventus(=アドベントゥス)から来たもので、イエス・キリストの降誕を待ち望む期間のこと(今年は11月27日から12月24日まで)です。

●今出川火曜チャペル・アワー 17:30 ~ 18:10

神学館礼拝堂 12月6日・13日・20日

●今出川水曜チャペル・アワー 10:45 ~ 11:30

クラーク・チャペル 11月30日・12月7日・14日・21日

●今出川金曜ランチタイム・チャペル・アワー 12:35 ~ 13:00

同志社礼拝堂 12月2日・9日・16日・23日

●京田辺火曜ランチタイム・チャペル・アワー 12:35 ~ 13:00

同志社京田辺会堂 言館(KOTOBA-KAN)礼拝堂 12月6日・13日・20日

●京田辺水曜チャペル・アワー 15:00 ~ 15:45

同志社京田辺会堂 言館(KOTOBA-KAN)礼拝堂 11月30日・12月7日・14日・21日

●京田辺金曜ランチタイム・チャペル・アワー 12:35 ~ 13:00

同志社京田辺会堂 言館(KOTOBA-KAN)礼拝堂 12月2日・9日・16日・23日

【お問い合わせ先】

今出川校地 キリスト教文化センター事務局 TEL:075-251-3320

京田辺校地 キリスト教文化センター事務局 TEL:0774-65-7370

クリスマス・イブ礼拝

●今出川校地

いのちが温もりに包まれる夜、同志社のクリスマス・イブ礼拝にお出かけください。

【日時】12月24日(土) 18:30 ~ 20:00

【会場】同志社礼拝堂 ※同志社教会のクリスマス・イブ礼拝と共同開催。
会場の都合で、満員になりましたら、入場をお断りする場合がございます。
予めご了承ください。

●京田辺校地

楽しい歌とパフォーマンスでキリスト降誕を一緒に祝いましょう。

【日時】12月24日(土) 16:40 ~ 17:30

【会場】同志社京田辺会堂 言館(KOTOBA-KAN)礼拝堂

【お問い合わせ先】

今出川校地 キリスト教文化センター事務局 TEL:075-251-3320

京田辺校地 キリスト教文化センター事務局 TEL:0774-65-7370

同志社 クリスマスキャンドルライトサービス

キャンドルの光のもと、皆さんで一つになって、イエス・キリストの誕生をお祝いしましょう。

【日時】12月23日(金・祝) 開場 17:30/開式 18:00

【会場】今出川校地 同志社栄光館ファウラーチャペル(女子大学・女子中高構内)

【主催】同志社クリスマスキャンドルライトサービス実行委員会

【後援】同志社中高・女子中高・国際中高・香里中高 各校宗教部

同志社大学 キリスト教文化センター・同志社女子大学 宗教部

【お問い合わせ先】同志社女子大学 宗教部 TEL:075-251-4141

第52回全同志社メサイア演奏会

今年で戦後の復活メサイア52回目です。クリスマスイブの夜、皆さまのご来場をお待ちしております！

【日時】12月24日(土) 開場17:00/開演18:00

【会場】京都コンサートホール 大ホール 【指揮】飯守 泰次郎

【曲目】G.F.ヘンデル：オラトリオ「メサイア」

ソプラノ：高島依子 アルト：福原寿美枝 テノール：小貴岩夫

バス：青木耕平 チェンバロ：井幡万友美 オルガン：高橋聖子

合唱：同志社メサイアコア 同志社グリークラブ

メサイアシンガーズ

演奏：同志社交響楽団

【入場料】S席(事前座席指定) 2,000円

A席(事前座席指定) 1,500円

B席(当日座席指定) 1,000円

※B席のみ当日16:30より座席券交換

【チケット】

チケットぴあ TEL:0570-02-9999 <http://t.pia.jp> (Pコード307-722)

京都コンサートホールチケットカウンター TEL:075-711-3231

ロームシアター京都チケットカウンター TEL:075-746-3201

同志社大学生協 京田辺ブック&トラベル TEL:0774-65-8376

良心館トラベル&サービス TEL:075-251-4433

※未就学児の入場はご遠慮ください。

2017年度 同志社ローム記念館プロジェクト 募集

京田辺キャンパスの正門入ってすぐの施設「同志社ローム記念館」では、学生主体で企画・運営する課外プログラム「同志社ローム記念館プロジェクト」を展開しています。

現在、2017年度に実施するプロジェクトを募集中です。採択されると、活動費が付与される、プロジェクトルームを使用できるなど、1年間のプロジェクトを展開するにあたってのサポートを受けることができます。

あなたのアイデアをプロジェクトにしてみませんか？誰かに役立つものづくり、切磋琢磨できる仲間づくり、たくさんの経験を重ね有意義な1年を過ごしましょう。

詳しい募集要項やプロジェクト活動に関するお問い合わせは、ローム記念館webサイト(<http://rohm.doshisha.ac.jp/>)、館内設置の募集要項をご覧ください。

なお、本年度のプロジェクトの最終成果報告会は2017年3月4日(土)を予定していますので、興味のある方はぜひお越しください。

【2017年度プロジェクト活動期間】2017年4月5日(水)~2018年3月15日(木)(予定)

【エントリー締切】2017年1月20日(金) 17:00

【お問い合わせ先】ローム記念館事務局(京田辺校地総務課)

TEL:0774-65-7800 E-mail:jt-rohm@mail.doshisha.ac.jp

bふらっとプログラム



【会場】京田辺キャンパス ローム記念館内 劇場空間 【料金】無料

●12月14日(水) 開演時間:12:20 ~

~世界のギター博覧会&コンサート~ 特別展「英語でわかる!ビートルズ」

出演:大江和基・田中彬博・豊田渉平

●12月22日(木) 開演時間:12:20 ~

~クリスマス週間 ランチタイムコンサート~

出演:F. A. C+OneVoices

【会場】京田辺キャンパス ハローホール(多目的ホール) 【料金】無料

●1月7日(土) 開演時間:13:00 ~

~タンバリンコンサート&ワークショップ~「鳴らしてみようタンバリンワークショップ」

出演:田島 隆(タンバリン博士)

【お問い合わせ先】

京田辺校地学生支援課 TEL:0774-65-7413

大学生マジシャンの日本一を決定する 第8回関東学生マジック選手権で優勝

昨年9月に第16回ICMマジックコンベンション(開催地:三重県)で大賞を獲得した黒川智紀さんは、その特別賞として同月に韓国で行われた第2回蔚山国際マジックコンベンションに特別招待され、この国際大会でも見事にグランプリを獲得。さらに、12月に開催された第8回関東学生マジック選手権(開催地:東京都)でも優勝に輝いた。「韓国の大会には主にアジアの国々から若手マジシャンたちが集い、腕を競います。まさかこれほど早く海外で勝負できる日が来るとは思っていませんでした。出場が決まった時には、まだパスポートを持っていなかったもので、大急ぎで申請しました。受け取れたのはフライト当日の朝でした(笑)。グランプリ受賞を機に各国の大会に招待されるようになり、パフォーマンスの場が一気に広がりました。また、3度目の挑戦となった第8回関東学生マジック選手権で、念願だった日本一の大学生マジシャンになることができました」

黒川さんがマジックに興味を抱いたのは中学3年生の時。友人が目前で披露してくれたトランプマジックに魅了され、その後、マジックを題材としたテレビ番組で世界の一流マジシャンの妙技に感嘆。大学に進学したら、マジックを極めようと決意する。1年次の春から同志社大学公認団体「Hocus-Pocus」に加わり、練習を積み重ねながら大学内でのステージ公演、子ども会などでのパフォーマンス披露、同志社EVEでもマジックカフェ出店とステージ出演を行うなど多彩な活動に取り組んだ。2～3年次にはサークル代表も務めた。発案はもとより衣装や音楽、照明などパフォーマンスの全てを一人でプロデュースし、自分の演技の細部までこだわることができるのがステージマジックの大きな魅力だという。

自分のマジックに確かな手応えを感じたのは初めてサイコロマジックを試みた

昨年の第16回ICMマジックコンベンションの時だと振り返る。「何よりも大切なのは『評価されるオリジナル』を生み出すことです。人間は特出した独創性を正しく評価することができません。例えば、マジシャンの持つ魔法の杖が消えるよりも、誰もが普段使っている鉛筆が消える方が驚きは大きいと考えられます。これには鉛筆は筆記の道具であり、消失するものではないという背景知識が観客にあるからです。この『ありえない!』という観点がポイントです。コンテストの場合、審査員はマジシャンが務めます。彼らはサイコロに関する背景知識はほとんど持ち合わせないため、サイコロによってどのような現象を起こしても正しいものさしではかることはできません。しかし、トランプに関する背景知識は豊富に持ち合わせているため、トランプがサイコロになるという現象であればその人の背景知識の限界を打ち破り『ありえない!』と感じさせることができます。この点を取り込んでサイコロにトランプを加えました。このようにオリジナルのアイデアを発案した時は、どうすれば相手に受け入れてもらえるかを熟考し、確信できる切り口を見いだすことが成功の決め手になります」

今後最大の目標は2018年に開催されるFISM(フィズム)だと語る。3年に1度開催される世界最大級のマジックイベントであり、「マジックのオリンピック」とも称されている。すでに今年9月に日本代表に選出されており、来年開催の「FISM ASIA」でアジア代表を勝ち取れば、出場権が得られる。卒業後はプロマジシャンの道を歩む黒川さん。マジックの探究で得た知見を体系化し、ゲームなどのプロデュースにも携わりたいという。「好きこそ物の上手なれ」が母校の後輩の皆さんに贈る言葉である。



黒川 智紀さん

【生命医科学部医生命システム学科 4年次生】

